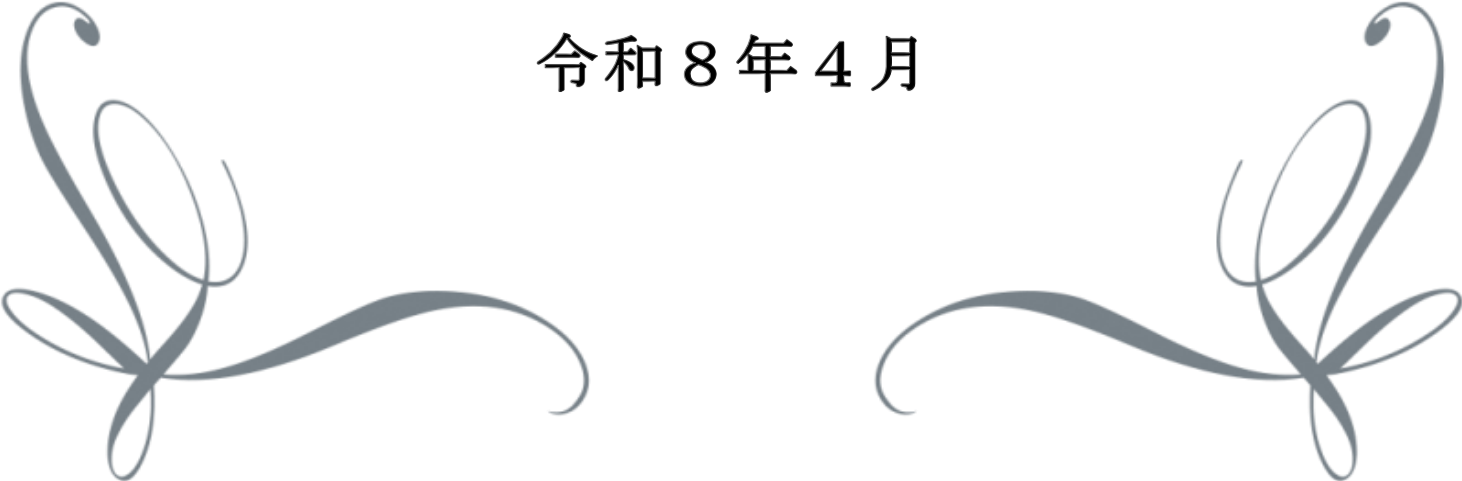


武蔵野市社会教育委員の会議
協議報告書
(令和6～7年度)

令和8年4月



I	今期の振り返り・・・・・・・・・・・・・・・・	2
II	会議報告・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1	生涯学習事業費補助金、子ども文化・スポーツ・体験活動団体 支援事業費補助金について・・・・・・・・	3
(1)	生涯学習事業費補助金	3
(2)	子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金	11
(3)	社会教育委員の意見からの制度改善	17
(4)	改善点	19
(5)	令和8年度に向けての変更点	19
2	令和6年度 武蔵野市生涯学習に関する調査・・・・・・・・	20
(1)	武蔵野市生涯学習に関する調査の実施内容	21
(2)	社会教育委員の会議の意見	23
3	令和7年度 庁内生涯学習事業調査・・・・・・・・	27
(1)	庁内生涯学習事業調査の実施内容	27
(2)	社会教育委員の会議の意見	30
(3)	令和7年度 試行事業	32
4	東京都市町村社会教育委員連絡協議会の活動について・・・	35
(1)	活動経過	
III	視察等研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・	38
IV	資料・・・・・・・・・・・・・・・・	51
1	活動経過・・・・・・・・・・・・・・・・	51
2	社会教育委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・	56

I 今期の振り返り

令和6年から7年にかけての2年間は、新型コロナウイルス感染症による「コロナ禍」の脅威が去りました。武蔵野市民の社会教育活動も以前の活発さを取り戻して来つつあります。

武蔵野市では「学びおくり（あい）」をモットーとして社会教育が進められています。学校や講習会で得られる知識ばかりでなく、衣食住の日常生活のなかで得たこと、趣味の活動で得たことを含めて、自分が知っていること、体験したこと、いま考えていることなどをシェアしていく。その活動は武蔵野市ではたいへん活発です。しかも、知識や体験の交流として非常に質が高いと実感しています。社会教育委員の会議としては、そういった市民の活動をできるかぎりサポートしていきたいと思っています。

また、学校教育では、児童生徒が自ら問題を発見して解決へとつなげる学習への大きな転換が図られました。これと相まって、学校教育へのICTの導入もいよいよ本格化してきています。社会の変化を含めたさまざまな要因から、学校教育の現場で負担が教員に集中する傾向も続きました。これらを解決するために、学校教育と社会教育の連携が進められています。この連携は今後はますます重要になっていくものと思います。

なお、「学びおくり」というと、「恩おくり」のたとえからも、どうしても「上の世代から下の世代に伝える」というニュアンスが出て来てしまいます。しかし、私たちとしては、世代や社会的立場に関わりなく、知識を共有し、体験を共有し、課題も共有していくということがたいせつだと思えます。そのため、今期からは「学びおくりあい」という表現を多用することになりました。中高生を含む若い世代のみなさんも、ぜひとも、知識や体験、そして日々考えていることを上の世代と共有する活動にチャレンジしてください。私たちとしてもせいっぱいサポートしたいと思えます。

最後になりましたが、社会教育委員の会議の2年間の活動を支えてくださった市民のみなさまをはじめとして、市役所生涯学習スポーツ課のみなさまほか関係各位にはほんとうにお世話になりました。心から感謝を捧げたいと思えます。ありがとうございました。

令和8年3月

武蔵野市社会教育委員の会議
議長 光田 剛

II 会議報告

1 生涯学習事業費補助金、子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金について

(1) 生涯学習事業費補助金

平成 24 年度より実施していた「生涯学習事業プロポーザル」の形式、交付限度金額及び審査方法を改善して若干の変更を加え、平成 28 年度より運用を開始した。社会教育関係団体等の生涯学習活動団体が、団体構成員のための活動にとどまらず、広く市民に向けて生涯学習の場を提供する事業を支援する。また、社会教育委員の会議での問題点の指摘や意見等を取り入れ、令和 7 年 2 月に補助金要綱が改正された。

本制度は、1 団体 1 事業 50 万円を限度に、地域活動の活性化、非日常性、魅力、実現可能性、公共性等を勘案し、審査のうえ交付する。書類及び団体によるプレゼンテーションについて、社会教育委員が検討して交付決定に関わった。

ア 生涯学習事業費補助金の概要

事 項	内 容
補助額	上限 50 万円
内容	<p>■対象団体</p> <p>(1) 特定非営利活動法人又は任意の市民団体</p> <p>(2) 市内に事務所などの活動の拠点がある団体</p> <p>(3) 5 名以上で構成し、かつ、構成員の半数以上が市内に在住し、在勤し、又は在学している団体</p> <p>■事業概要</p> <p>主に市民を対象とし、かつ市内において実施する生涯学習事業に要する経費の全部又は一部を武蔵野市が補助することにより、<u>団体が日頃の活動では取り組むことが難しい新規の事業の立上げ及び当該事業の自立を促し、もって市の生涯学習の発展に寄与することを目的とする。</u></p> <p><u>要綱改正（令和 7 年 2 月）を行い、令和 7 年度は、学びを通じて個人の人生の豊かさを向上させるとともに、学びにより個人と社会を結びつけて地域コミュニティをよりよくする新規の事業の立上げ又は既存の事業のレベルアップを図り、もって市の生涯学習の発展に寄与することを目的とする。</u></p> <ul style="list-style-type: none">・事業単位（1 団体 1 事業まで）とする。・子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金に該当する事業については、同補助金への申請を促すこととし、生涯学習事業費補助金の対象外とする。 <p>■応募条件</p> <ul style="list-style-type: none">・主に市民を対象とした事業であること

	<ul style="list-style-type: none"> ・営利的、政治的、宗教的目的を持つ事業でないこと ・市が交付するほかの補助金の交付を受けていないこと ・同一事業において子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金と合わせて3回本補助金の交付を受けていないことなど
検討	<p>武蔵野市社会教育委員が①書類と、指定する事業について②プレゼンテーションによる検討を行う。</p> <p>■検討方法</p> <p>① 書類 主に以下の項目をもって行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の生涯学習の発展に寄与する魅力的な事業か ・地域活動の活性化の貢献度が高いか ・無理がない計画か ・市民に広く開かれて実施するか ・補助金充当額は適正か <p>② プレゼンテーション 申請額 10 万円以上の団体又は新規事業、実施事業内容について書類以外による説明が必要であると判断した団体に対して、プレゼンテーションを要請する。社会教育委員は、そのプレゼンテーションと書類の内容を総合して検討する。</p> <p>■交付団体の実施事業の視察 各委員が交付団体実施事業を視察し、協議報告書に取りまとめる。</p> <p>■説明会& “学びおくりあい” 交流会 令和6年度から、団体の課題や工夫していること等を団体間で共有する報告会のやり方を以下のとおり変更した。</p> <p>社会教育委員の会議では、補助金の提出書類が多く申請にあたりハードルになっていることや申請から交付決定後も事務局と団体のやりとりが煩雑になっていることから、予め団体に対して説明会を実施したほうがいいのではないかと意見があった。また、報告会についても、一般の市民が参加できるイベントにすれば、広報や予算に関する課題や活動のノウハウなどが予め把握できる、さらに、団体同士が交流できる場を設けることで、今後の情報交換や広報協力なども期待でき “学びおくりあい” 実践になるのではないかと。という意見からこれまでの「報告会」を「説明会& “学びおくりあい” 交流会」とした。</p>



令和6年度プレゼンテーションの様子

イ 令和6年度生涯学習事業費補助金交付団体一覧（当初交付）

団体名	事業名	金額
シルクロード研究会	シルクロード歴史講座	132,296
武蔵野 OGOB ロックフェス PMO	武蔵野 OGOB ロックフェスティバル	317,000
井の頭自然文化園の未来を想う会	ふれて見る彫刻鑑賞	164,978
「めぐみへの誓い」武蔵野市上映実行委員会	第2回『めぐみへの誓い』映画上映会&トークイベント	201,600
みんな友だちフェスティバル実行委員会	みんな友だちフェスティバル	500,000
TEAM299(にくきゅう)	299 シンポジウム「アニマルウェルフェアってなあに？」～動物の愛護と福祉～	282,600
みんせきの会	みんなで学びおくり場！つくろう。広めよう	44,000
武蔵野漢詩愛好会	公開講演：日本文化の源泉を辿る－芭蕉の「おくのほそ道」と漢詩文	133,800
むさしの歌謡愛好会	令和に響く昭和歌謡の調べ	377,700

（申請：9団体 交付：9団体）

ウ 令和6年度生涯学習事業費補助金交付事業視察報告

団体名：「めぐみへの誓い」 武蔵野市上映実行委員会	事業名：第2回『めぐみへの誓い』映画上映会 &トークイベント
日時：令和6年8月4日（日）	場所：武蔵野芸能劇場3階小劇場
視察委員：三原 忍	
<p>概要</p> <p>約70名の参加者の中、金子宗徳代表の挨拶に始まり映画の上映へ。1時間40分ほどの上映後、拓殖大学教授荒木和博氏と金子宗徳代表のトークイベントが開催された。三多摩関連の拉致被害者・特定失踪者・拉致未遂（公開のみ）の紙が配布され、実は中央線沿いに多くの拉致関連被害者が多いという内容から、これについてマスコミや行政はもっと大きく取り上げるべきという話もあった。</p>	
<p>視察報告</p> <p>横田めぐみさん、田口八重子さんを中心に拉致被害者と家族の苦悩を描いた映画は衝撃的な内容も多く、ずっしりと心に残るものであった。かつてはテレビや新聞で毎日のように見聞していたが、最近は風化の一途をたどっていることは確かだ。実際に帰国された方もいらっしゃるから、我々も子供達にも事実を知り考える必要があると思う。そのきっかけとしては意義のあるイベントであった。そして上映後には市長の挨拶をはじめ市議会議員数名の紹介もあり、武蔵野市では関心度が高まっているように感じられた。</p>	

団体名：シルクロード研究会	事業名：シルクロード歴史講座
日 時：令和6年9月19日（木）	場 所：武蔵野プレイス
視察委員：光田 剛	
<p>概要</p> <p>「仏像」という信仰様式が始まったのはガンダーラ地域においてであるということが言われていた。今回の研究会では、そのガンダーラ仏について、日本仏教の影響を受けた見かたを取り払い、ガンダーラの仏教信仰の実態について、根拠を示しながら具体的に紹介し、検討した。</p>	
<p>視察報告</p> <p>ガンダーラ地域での仏教では、弥勒信仰と観音信仰が中心となったが、「仏教はカースト制（種姓制）否定で平等を原則とする」というたてまえとは別に、弥勒信仰は聖職者身分のバラモン、観音信仰は貴族身分のクシャトリアを中心に広がったことが、根拠をあげて示され、この時代の仏教の実態が詳しく論じられた。とくに、たとえば「半跏思惟像は弥勒」などという、「日本仏教」の常識を前提にしていると、理解が誤ることがあるという議論が印象的だった。</p> <p>本研究会は、会員制で、余裕があるばあいは当日参加の参加者を受け入れるという方式で行われるが、今回も満員となり、一部の参加者は断らざるを得ないという状況になっていた。専門性の高いタイトルであり、講座の内容も専門性の点で妥協しないものであったが、多くの市民が参加を希望し、熱心に聴講していた。もう少し広い場所が確保できれば、ということを感じた。</p>	

団体名：みんな友だちフェスティバル実行委員会	事業名：みんな友だちフェスティバル
日 時：令和6年10月13日（日）	場 所：境南ふれあい広場公園
視察委員：上澤 進介	
<p>概要</p> <p>昨年に続き、本補助金2回目のみんな友だちフェスティバル。10月13日に武蔵境の武蔵野プレイス前の境南ふれあい広場公演で開催。多文化共生をテーマに多国籍な方々のパフォーマンスや多国籍の食べ物や文化を知ることの出来るお店が出店。昨年は目標の500人を大きく上回る1,500人が来場した。</p>	
<p>視察報告</p> <p>昨年に続いて2回目の開催となった「みんな友だちフェスティバル」。昨年と比較すると事前の広報活動がやや控えめだった印象がありました。</p> <p>イベント終了間際の視察となったため、全体的な盛り上がりについては把握しきれなかったものの、人出はあり、賑わっている様子が見受けられました。一方で、ちょうど武蔵境駅前に石破総理が演説に来ていた影響で、そちらに人が流れてしまったのは少し残念でした。</p> <p>イベントではさまざまな国のお店や多様なパフォーマンスが披露され、多文化共生の大切さを伝える貴重な機会となっていたようです。次回の開催が予定されているのであれば、事前の広報活動にさらに力を入れることで、より多くの方々に情報が届き、さらに盛り上がるのではないかと感じました。</p>	

団体名：井の頭自然文化園の未来を想う会	事業名：ふれて見る彫刻鑑賞ツアーとワークショップ
日時：令和6年10月26日（土）	場所：井の頭自然文化園彫刻館
視察委員：齋藤 秀夫	
<p>概要</p> <p>井の頭自然文化園に設置されている北村西望の屋外彫刻作品3点を学芸員の解説を聞きながら実際に彫刻に触れてみて、作品のモデルの人物像や彫刻作成の意図などを感じ、参加者が語り合う。</p>	
<p>視察報告</p> <p>参加者20名（定員20名）</p> <p>研究者の学芸員土方浦歌氏から、井の頭自然文化園彫刻館に展示されている平和記念像の製作者北村西望について事前レクチャーを受けた後、屋外に設置されている北村西望の作品3点（師範代、拳闘、源泉）について、作成された時期や時代背景などの解説を聞きながら鑑賞した。普段は実際に触れる事の出来ない彫刻に触れ、作者の作成意図やモデルとなった人物がどのような状況・想いの時に取ったポーズなのか、目線の先に何が有るのか、また作品の力強さを表現するためにどのように筋肉を表現しているのかなどを考えながら鑑賞した。普段はただ眺めるだけであった彫刻鑑賞を違った視点で鑑賞する事が出来て非常に良い内容であったと思う。</p> <p>鑑賞後にそれぞれ感じた事などを語り合ったが、同じ作品でありながら参加者それぞれの違った思いがあり、思いを共有する事が出来たのも良かったと思う。</p>	

団体名：武蔵野 OGOB ロックフェス PMO	事業名：武蔵野 OGOB ロックフェスティバル
日時：令和6年11月9日（土）	場所：吉祥寺 MANDA-LA2
視察委員：小町 友則	
<p>概要</p> <p>武蔵野中央地域で一中、四中エリアのオヤジバンドを中心に、地域での繋がりや活性化のために、プロを招いたロックフェスティバルを企画し、運営・実施する。</p>	
<p>視察報告</p> <p>当日は、吉祥寺のライブハウス、マンダラ2で、ロコミや出演募集のチラシによって集まった武蔵野の中央地区のオヤジバンドなど8バンドとプロ（石川浩司[たま]、メカエルビス&スペースジプシー）の10バンドが出演、1バンド約25分で15:30～21:30で演奏を行っていた。</p> <p>はじめの4バンドを視察、ロックやカントリー、ゴスペルのバンド・グループが日ごろの練習の成果を披露した。当日運営や出演待ちのバンドメンバーを含めて客席50席程度が満席で、立ち見が20名くらいであった。各グループとも、それなりに味があり、観客を魅了していた。</p> <p>バンドの演奏の合間に、地域のイベントの告知などが行われたり、歌詞の中に吉祥寺や武蔵野を取り入れたりして、地域としての一体感が伝わってきた。最後はプロ、アマ合同の演奏が行われ、バンド間の交流も生まれたようで、たいへん盛り上がっていた。</p>	

団体名： TEAM299(にくきゅう)	事業名：299 シンポジウム「アニマルウェルフェアってなあに？」
日時：令和6年11月10日(日)	場所：成蹊大学6号館401教室
視察委員：上澤 進介	
<p>概要</p> <p>チーム299による「アニマル・ウェルフェア」をテーマとしたシンポジウム。11月10日に成蹊大学で開催された。武蔵野市長、獣医師、ドッグトレーナー、元Jリーガー、成蹊大学の学生らが登壇し、動物愛護や福祉について議論します。動物との共生を考える場として、参加者も交えて意見交換が行われます。</p>	
<p>視察報告</p> <p>参加者は全体で50人ほどでした。成蹊大学のボランティアサークルUni.も参加していたこともあり、若い世代も参加していました。</p> <p>獣医の中川先生からアニマル・ウェルフェアに関して詳しくご説明をいただき、市長からは武蔵野市のペット政策の紹介。元Jリーガーの大友さんからは海外のペット事情、Uni.の学生さんたちからはペット関連のボランティア活動について報告がありました。</p> <p>高齢者のペット譲渡の対象外になる問題について議論があり、中川先生からペットを飼うことで認知症の予防にもなることと、高齢者どうして事前にペットの譲渡を取り決めることでペットを飼育する方法もあると教えていただきました。</p> <p>私自身「アニマル・ウェルフェア」という言葉をはじめて知りました。質問や意見交換も積極的に行われ、アニマル・ウェルフェアへの理解の深まる内容でした。</p>	

団体名：むさしの歌謡愛好会	事業名：戦前戦後・流行歌とジャズソングの演奏会
日時：令和6年11月23日(土)	場所：吉祥寺東美協会
視察委員：三原 忍	
<p>概要</p> <p>教会の椅子は開始時間にはほぼ満席。武蔵野市民にはお土産つき。</p> <p>第1部は戦前戦後の流行歌とジャズソングの演奏会、第2部は参加者と一緒に合唱をするという2部構成。第1部では、当時の事件や世の中の流れ、歴史などのトークをまじえながら曲の紹介があった。武蔵野市にちなんだ楽曲の演奏もあった。第2部では、参加者とともに2曲合唱し、手拍子やダンスなどで盛り上がり大盛況だった。</p>	
<p>視察報告</p> <p>衣装や音楽、歌声までもが一瞬で昭和になり、時代背景を聞いてからの楽曲演奏は知らなくてもあの時代がよみがえってくるような不思議な感覚に全員が魅了されているようだった。また教会でのライブという普段にはない異空間がさらに雰囲気をつくり、企画、演出のプロフェッショナルを感じた。ただ一点、日程の最終決定が遅く、どこまで本当の一般参加者に周知できたのか、気になるころではあったが、今後、武蔵野市内多様な場所での開催ができると良いと思った。あの頃に思いを馳せ、最後は心が豊かになる体験はなかなかないと思う。</p>	

団体名： 武蔵野漢詩愛好会	事業名： 芭蕉の「奥の細道」と漢詩文
日 時： 令和7年2月23日（日）	場 所： かたらいの道市民スペース
視察委員： 辻本 昭彦	
<p>概要</p> <p>研究者の講師による日本文化の源流を辿るというテーマで、芭蕉の「奥の細道」を題材に漢詩文の世界を展開した講演会。奥の細道で芭蕉が引用したと思われる漢詩文を対比しながら紹介された。たとえば、杜甫『春望』『國破山河在』から影響を受けて、奥州平泉にて「夏草や兵どもが夢の跡」と詠んだ句の関連性などである。</p>	
<p>視察報告</p> <p>参加者は20数名、60歳以上の受講生が多く、おそらく漢詩文や俳諧に一定のレベルを持った方の参加であった。講師の先生のお話が大変分かりやすく、人を惹きつける語り口であったので、漢詩文に触れたことがない方でも、十分楽しめた講演であった。アニメ「鬼滅の刃」など、新しい切り口で漢詩文の普及を図っていることや、大河ドラマ「べらぼう」の蔦屋重三郎の版元としてのプロデュース力の話など、日本文化の背景を巧みに取り入れた内容は秀逸であった。今後の課題としては、集客のための広報や、若い人の参加などである。今回は講演活動が中心であったので、漢詩文の創作活動において、どのように「学びおくり」を展開するかを知りたいところである。</p>	

エ 令和7年度生涯学習事業費補助金交付団体一覧（当初交付）

団体名	事業名	金額
シルクロード研究会	シルクロード歴史講座	205,208円
武蔵野 OGOB ロックフェス PMO	武蔵野 OGOB ロックフェスティバル 2025	336,000円
西公園なかよし祭り実行委員会	2025 西公園なかよし祭り	420,600円
Emiwa	AI アートと対話型美術鑑賞	224,700円
なないろのおと	カミングアウトジャーニーとその後の物語-アフタートーク付きダブル上映会-	169,800円
「めぐみへの誓い」武蔵野市上映実行委員会	第3回「めぐみへの誓い」映画上映会&トークイベント	205,100円
武蔵野漢詩愛好会	連続公開講演会：芭蕉「おくのほそ道」の旅を辿る ～旅と生きざまと漢詩世界と～	215,996円

（申請：8団体 交付：7団体）

オ 令和7年度生涯学習事業費補助金交付事業視察報告

団体名： 西公園なかよし祭り 実行委員会	事業名： 西公園なかよし祭り
日 時： 令和7年11月2日（日）	場 所： 吉祥寺西公園
視察委員： 三浦 太郎	

<p>概要</p> <p>吉祥寺西公園を会場として、地域諸団体が集まって防災をテーマにブース展示や消火体験等を行う夏祭り</p>
<p>視察報告</p> <p>吉祥寺西公園を一杯に使い、地域諸団体が防災をテーマにブース出展をしていました。内容も初期消火、煙体験といった防災関連のほか、縁日の出店や NPO 団体の活動紹介、ステージではダンス、演奏などが行われ、小学校の保護者（おやじの会）による音響ブース、飲食販売など多岐にわたる出展で、子供が楽しく学び遊べる工夫がなされていました。</p> <p>ブース出展以外にも物品協賛、備品提供などの協力団体も含めると参加団体は 51 団体にも及び地域諸団体の連携を深める良い機会だと思います。</p> <p>主催者に話を聞いたところ、各団体に資金力はほとんどないため、補助金なしにこれだけの規模の事業を参加団体だけで企画することは難しいそうで、補助金が使えて良かったとの声を聞くことができました。</p> <p>継続的にこのような祭りを実施していくためには、自己資金での運営を考えていく必要があるため、飲食ブースや物販などの収入を運営費に充てる、各ブースから出展費を取るなどの工夫が必要になってくるのではないかと感じました。</p>

<p>団体名：武蔵野 OGOB ロックフェス PMO</p>	<p>事業名：武蔵野 OGOB ロックフェスティバル 2025</p>
<p>日 時：令和 7 年 11 月 9 日（日）</p>	<p>場 所：吉祥寺 MANDA-LA2</p>
<p>視察委員：小町 友則</p>	
<p>概要</p> <p>武蔵野中央地域で一中、四中エリアのオヤジバンドを中心に、地域での繋がりや活性化のために、プロを招いたロックフェスティバルを企画し、運営・実施する。2024 年度に続き、2 回目の開催となった。</p>	
<p>視察報告</p> <p>当日は、吉祥寺のライブハウス、マンダラ 2 で、ロコミや出演募集のチラシによって集まった武蔵野市のオヤジバンドやコーラスグループ、及びプロバンド（氏神一番 [カブキロックス]）の 12 バンドが出演、1 バンド 10～30 分で 14:50～21:30 で演奏を行っていた。</p> <p>はじめの 5 バンドを視察、ロックやカントリー、ゴスペルのバンド・グループが日ごろの練習の成果を披露していた。当日運営や出演待ちのバンドメンバーを含めて客席 50 席程度がほぼ満席で、立ち見が 20 名くらいであった。各グループとも、それなりに味があり、観客を魅了していた。</p> <p>多くのバンドが歌詞の中に吉祥寺や武蔵野を取り入れたりしたり、観客が打楽器等で演奏に参加したり、演奏を通して地域としての一体感が伝わってきた。</p> <p>最後はプロ、アマ合同の演奏が行われ、バンド間の交流も生まれたようで、たいへん盛り上がっていた。</p>	

(2) 子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金

本市の「子ども文化・スポーツ・体験活動基金」を原資とし、平成 26～27 年度は試行事業として実施し、平成 28 年度より開始した。社会教育委員の会議での問題点の指摘や意見等を取り入れ、令和 2 年 4 月に補助金要綱が改正された。主に市内で活動する 5 名以上の団体で構成員の半数以上を市民とする団体の活動を支援の対象とする。事業内容は、主に市内に在住・在学する満 19 歳以下の子どもを対象とした文化・スポーツ事業・体験活動事業に係るものとして、その経費の一部又は全部を補助する。

本制度は 1 団体 1 事業 50 万円を限度に、体験活動の活性化、地域活動の活性化、非日常性、魅力、実現可能性、公共性等を勘案し、審査のうえ交付する。「生涯学習事業費」同様、書類及び団体によるプレゼンテーションについて、社会教育委員が検討して交付決定に関わった。

ア 子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金の概要

	内 容
補助額	上限 50 万円
内 容	<p>■対象団体</p> <p>(1) 特定非営利活動法人又は任意の市民団体</p> <p>(2) 市内に事務所などの活動の拠点がある団体</p> <p>(3) 5 名以上で構成し、かつ、構成員の半数以上が市内に在住し、在勤し、又は在学している団体</p> <p>■事業概要</p> <p>主に市内に在住し又は在学する満 19 歳以下の子どもを対象とした文化、スポーツ又は体験活動事業に要する経費の全部又は一部を武蔵野市が補助することにより、<u>団体が日頃の活動では取り組むことが難しい新規の事業の立上げ及び当該事業の自立を促し、もって子どもの体験活動の活性化に寄与することを目的とする。</u></p> <p>要綱改正（令和 7 年 2 月）を行い、令和 7 年度は、<u>学びを通じて個人の人生の豊かさを向上させるとともに、学びにより個人と社会を結びつけて地域コミュニティをよりよくする新規の事業の立上げ又は既存の事業のレベルアップを図り、もって子どもの体験活動の活性化に寄与することを目的とする。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業単位（1 団体 1 事業まで）とする。 <p>■応募条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に市民を対象とした事業であること ・営利的、政治的、宗教的目的を持つ事業でないこと ・市が交付するほかの補助金の交付を受けていないこと ・同一事業において生涯学習事業費補助金と合わせて 3 回本補助金の交付を受けていないことなど
検討	<p>武蔵野市社会教育委員が①書類と、指定する事業について②プレゼンテーションによる検討を行う。</p> <p>■検討方法</p>

	<p>① 書類 主に以下の項目をもって行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加する子どもの学びや体験に寄与しているか ・地域活動の活性化の貢献度が高いか ・子どもにとって非日常的で有意義か ・無理がない計画か ・市民に広く開かれ実施するか ・補助金充当額は適正か <p>② プレゼンテーション 申請額 10 万円以上の団体又は新規事業、実施事業内容について書類以外による説明が必要であると判断した団体に対して、プレゼンテーションを要請する。社会教育委員は、そのプレゼンテーションと書類の内容を総合して検討する。</p> <p>■ 交付団体の実施事業の視察 各委員が交付団体実施事業を視察し、協議報告書に取りまとめる。</p> <p>■ 説明会& “学びおくりあい” 交流会 令和 6 年度から、団体の課題や工夫していること等を団体間で共有する報告会のやり方を以下のとおり変更した。</p> <p>社会教育委員の会議では、補助金の提出書類が多く申請にあたりハードルになっていることや申請から交付決定後も事務局と団体のやりとりが煩雑になっていることから、予め団体に対して説明会を実施したほうが良いのではないかと意見があった。また、報告会についても、一般の市民が参加できるイベントにすれば、広報や予算に関する課題や活動のノウハウなどが予め把握できる、さらに、団体同士が交流できる場を設けることで、今後の情報交換や広報協力なども期待でき “学びおくりあい” 実践になるのではないかと。という意見からこれまでの「報告会」を「説明会& “学びおくりあい” 交流会」とした。</p>
--	--

イ 令和 6 年度子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金交付団体一覧
(当初交付)

団体名	事業名	金額
囲碁の楽しさ伝え隊	子ども囲碁体験－碁遊び〔ごあそび〕プロジェクト	500,000 円
武蔵野市バレーボール連盟	武蔵野バレーボールフェスティバル	284,500 円
子どもどるダンス部	子どものための自由なダンスワークショップ	360,000 円
enjoy 中央	シャボン de ナイト	325,000 円

(申請：5 団体 交付：4 団体)

ウ 令和6年度子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金交付事業視察報告

団体名：enjoy 中央	事業名：シャボン de ナイト at 武蔵野四中
日 時：令和6年8月31日（土） 18時30分～20時00分	場 所：武蔵野市立第四中学校 ピロティ
視察委員：本郷 伸一、三原 忍	
<p>概要</p> <p>シャボン玉、照明、生演奏を融合させた、シャボン de ナイトを開催。18時30分から1回目、19時から2回目19時30分終了。</p>	
<p>視察報告</p> <p>enjoy 中央が開催した「シャボン de ナイト at 武蔵野四中」を視察してきました。当日は雨天となり、校庭から屋根があるピロティへと変更になりました。また千川組の和太鼓も予定していたそうですが、中止となっていました。それでも多くの親子連れが開始前から集まりだし、会場で配られたシャボン玉を楽しそうに飛ばしていました。時間になり主催者のあいさつの後、シャボン玉おじさんから作り出されるシャボン玉が、照明による様々な色の光で照らされ、生演奏との融合で、とても幻想的で美しいものでした。しかし雨天の影響で、校庭で出来なかったことはとても残念でしたが、子どもたちは歓声をあげたり、生演奏に合わせて踊ったり楽しそうでした。</p> <p style="text-align: right;">（本郷 伸一）</p>	

団体名：武蔵野市バレーボール連盟	事業名：バレーボールフェスティバル
日 時：令和6年10月20日（日）	場 所：武蔵野市総合体育館
視察委員：谷川 拓也	
<p>概要</p> <p>午前の部 バレーボール未経験者および初心者対象【午前中のみ視察】</p> <p>(1) 9:30 開始式 (2) 9:40 ウォーミングアップ</p> <p>(3) 10:00 ボール遊び (4) 10:20 サーブ的あて</p> <p>(5) 10:40 スパイク (6) 11:00 ゲーム</p> <p>(7) 12:00 閉会式</p> <p>参加者…経験のある小学生、未経験の小学生13人、未就学児12人</p> <p>午後の部 バレーボール経験者及び球技経験者対象</p> <p>(1) 14:00 開始式 (2) 14:10 ウォーミングアップ</p> <p>(3) 14:30 スパイク、レシーブ練習</p> <p>(4) 15:00 ゲーム (5) 閉会式</p>	
<p>視察報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレーコートをもとに、バレーコートをもとに2つに分けた小さなコートをもとに2面設定。 ・未就学児・未経験者を櫻井由香氏、横川電機バレー部の保護者と思われる人が担当した。 ・経験のある小学生のほとんどが武蔵野ブレイバースのTシャツを着用していた。 ・講師は明るく励ます言葉かけと雰囲気を作っていた。 ・クラブチームのブレイバースに所属している児童は、講師に直接指導を受けていた。 ・講師のボール扱い、パワーを見るだけで感動する。 	

- ・講師の桜井氏は市立小学校を巡回しバレーボールの普及活動をしている。学校教育と社会教育が情報共有することで、未経験者の参加は増えたのではないかと考える。
- ・講師の現役時代を知らない小学生にとっては、年代の近い中高生と一緒にスポーツを楽しむことが普及に有効なのではないかと考えた。

団体名： 囲碁の楽しさ伝え隊	事業名： 囲碁の楽しさ伝え隊
日 時：令和6年12月17日（火）	場 所：武蔵野市立第三小学校
視察委員：三浦 太郎	
<p>概要</p> <p>小学校に囲碁の講師を派遣して囲碁の体験教室を行うというもの。</p> <p>団体の代表者とお話をしたところ、各小学校によって実施場所や実施方法はやや異なるとのことであった。第三小学校では子ども館のスペースに机を並べ講師1名が3台の囲碁を並べ子どもたちと対戦や打ち方を指導していた。</p>	
<p>視察報告</p> <p>将棋と比べると囲碁に触れる機会は少なく、子どもたちも最初は囲碁の打ち方を知らない子がほとんどであったとのことである。</p> <p>本事業は1年間で複数回実施することを予定しており、第三小学校でも既に実施済みであった。そのため当日に参加した子どもたちのほとんどは前回の参加者であり、講師と対戦を楽しんでいる様子が見受けられた。</p> <p>事業の準備段階では学校側の反応は薄く難色を示す学校もあったようだが、実際に子どもたちが囲碁に触れ、楽しんでいる様子を見て次年度も実施して欲しいなど好意的な反応がほとんどとのことであった。</p> <p>このように学校では教えてもらえない伝統的なゲームを民間で子どもたちに教え伝えていくことは社会教育そのものではないかと感じた。</p> <p>課題としてはプロの講師を呼ぶと講師料が高く、補助金がないと団体の負担が重いという点であるが、子どもたちはそこまで高度な指導を望んでいるわけではなく、囲碁クラブなどのメンバーで賄えば、それほど負担なく継続的に実施できるのではないかと考える。</p>	

エ 令和7年度子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金交付団体一覧
(当初交付)

団体名	事業名	金額
武蔵野市サッカー協会	武蔵野市サッカー協会創立40周年イベント「岩渕真奈CUP武蔵野なでしこサッカー大会」	500,000円
ああ99ビビ	子どもどるダンス部	436,000円
本宿SC	かけっこ・体幹トレーニング教室	121,840円
ENJOY中央	シャボンdeナイト2025	495,340円
囲碁の楽しさ伝え隊	子ども囲碁体験-碁遊びプロジェクト-	480,000円

(申請：6団体 交付：5団体)

オ 令和7年度子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金交付事業視察報告

団体名：本宿 SC	事業名：かけっこ・体幹トレーニング教室
日 時：令和7年9月6日(土)	場 所：武蔵野市立本宿小学校
視察委員：谷川 拓也	
<p>概要</p> <p>名称 「もっと、もーっと！速く走ってみたくはないかい？『かけっこ・体幹トレーニング教室』～プロによる本物トレーニングを体験しよう」</p> <p>時間 10：00～11：30</p> <p>講師 谷 真一郎</p> <p>講師経歴 元日立製作所サッカー部（現 柏レイソル） 元日本代表（1990年ダイナスティカップ） 引退後 柏レイソル・ベガルタ仙台等のフィジカルコーチを務める。 現在 ヴァンフォーレ甲府 フィットネス・ディレクター</p> <p>谷 講師が開発した縄ばしご状で4マスのタニラダーを活用した講習会 谷 講師は、隔週日曜日 吉祥寺 LOFT 屋上のフットサルパーク 吉祥寺で走り方教室を開催している。</p>	
<p>視察報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加児童は45名（実際には41人ではないかと思えます。） ・参加児童は本宿小・第三小・杉並区松庵小の児童であった。当日は校庭で本宿小学校PTAの行事が行われていたため、参加者が減ったのではないかとのことであった。 ・「大きく腕を振りながら、もも上げをして歩く運動」「リズムを取りながら歩く運動」「片足ではねる運動」など子どもたちがあきないように多くのアクティビティが示された。 ・タニラダーを活用したアクティビティは、特に子供たちを飽きさせない多様な動きがあった。 ・講師は明るく励ます言葉かけと雰囲気を作っていた。 ・谷講師の指導は明確であり、見る見るうちに走り方が修正されて行く過程を見ることができた。 ・指導時間は予定よりも10分ほど長くなったが、充実した体験になったと感じた。 	

団体名： ああ99ビビ	事業名：子どもどるダンス部
日 時：令和7年10月5日（日）	場 所：吉祥寺北コミセン
視察委員：岡本 厚子	
<p>概要</p> <p>集まった小中学生が指導者のリードで体を動かしていく。指導者は言葉をまったく使わず、動作によって子どもたちを導いていく。楽器（太鼓やマンドリン）を演奏する人も何人かいて断片的なフレーズを奏で、不思議な空間を演出していた。体を自由に動かしながら白い長い布を全員で丸く敷いていき、水で落ちるペンで自由に絵を描かせる時間もあった。最後はみんなで消して布を巻き取っていた。すべて踊りの流れに乗ってやっていた。</p>	

視察報告

指導するダンサーは毎回違うようだが、視察した回は城俊彦さんという世界でも活躍しているダンサーと、そのついで集まった若手の打楽器奏者やマンドリン奏者が数人参加していた。ちょうどアーツカウンシル東京からも視察に来ていたので話を聞くと、今回の申請をした康本さんだからこそ城さんのような大物と呼ぶことができた、とのこと。城さんがひとつのアクションをした後、全員にそれを真似させることから始まり、その役を子どもたちにバトンタッチしていく。急に役を振られた子たちは緊張しながらも自分で考えたアクションを楽しそうにやっていた。参加したくない子は遠巻きにながめていたり途中から参加したり。誰も何も強制されることはなく自由だった。最初から最後まで言葉を使わずに成立しているのが驚き。SNSを代表とする大量の文字情報にさらされて内向きになっている子どもの心と体を解き放つ効果があるのではないかと思った。

団体名： サッカー協会	事業名：武蔵野市サッカー協会 創立 40 周年イベント「岩渕真奈 CUP 武蔵野なでしこサッカー大会」
日 時：令和 7 年 11 月 2 日（日）	場 所：武蔵野陸上競技場
視察委員：本郷 伸一	
概要 岩渕真奈サッカークリニック（小学 1 年～ 3 年生） 10：00～11：30 岩渕真奈 CUP 武蔵野なでしこサッカー大会（各チーム所属の中学生）12：00～15：00	
視察報告 武蔵野市サッカー協会創立 40 周年のイベントとして開催しました。 当日は市内のサッカークラブの皆さんが参加しており、コーチたちも多く集まっていました。 午前中は岩渕真奈選手を招いてサッカークリニックを開催しました。当初の募集人数は 150 人でしたが、当日は一般応募の小学生約 30 人とチーム所属の小学生とで 200 名以上の参加となりました。前半は 4 コートに分かれて基礎スキルメニューを行い、後半はミニの 8 コートに分かれて試合形式で行われました。各コートに岩渕選手が回りアドバイスを送っていました。 午後は岩渕真奈 CUP 武蔵野なでしこサッカー大会が開かれ、市内や近隣の女子中学生チーム 3 チームと MANA FRIENDS との 4 チームで試合を行い、岩渕選手も各チーム入りしてとても楽しそうに試合をしていました。	

団体名：囲碁の楽しさ伝え隊	事業名：子ども囲碁体験-碁遊びプロジェクト-
日 時：令和7年12月16日（水）	場 所：武蔵野市立第三小学校
視察委員：三原 忍	
<p>概要</p> <p>15:30～16:45 まで4面をテーブルにセットして対応。何度も来ている子供には対局し、初めての子供には簡単な石取りのような遊びを教え、少しずつ慣れさせていた。16:30を過ぎると校庭から戻ってきた子供たちが盤の周りに集まって順番に子供同士で対局、先生は全部の盤に目を配り丁寧にその子にあった進め方を教えているようだった。</p>	
<p>視察報告</p> <p>毎回きている子供もいて、真剣に集中して先生と対局していた。先生は上手に碁の打ち方を教えていて、ますます興味をもっているように見えた。こどもがいないときは、違う遊びをしている子供に声をかけてコミュニケーションをとって楽しそうに話していた。あぞべえの先生は、本当はもっと来てほしい、興味のある子供たちも多くいてその日を楽しみにしていると話してくれた。</p> <p>子供の様子は、どの子も集中していて、真剣に取り組んでいる子が多かった。先生の子供に対する教え方や話し方などがとても穏やかで慣れていて、安心して任せておける感じだった。ぜひもっと多くの学校で開催できたらいいと思う。本物の囲碁に触れてほしいとの思いから、本格的な盤は重く、一人でそれ以上は運べないとのことで車での来校は必須。本当にいい取り組みだと思った。</p>	

（3）社会教育委員の意見からの制度改善

補助金交付事業開始から年月を経て、様々な事例が蓄積され、社会教育委員の会議でも審査にあたり意見を述べてきた。これまでの社会教育委員の会議での問題点の指摘や意見等を取り入れ、令和7年2月の要綱改正では、実情を踏まえた目的の見直しが行われた。団体・市双方における事務が煩雑であることが課題となっていたことから、さらに全面的な見直しを行い、令和8年4月に、①補助金の交付額②申請手続きの簡素化③第二期武蔵野市生涯学習計画の理念を意識した補助金制度の整備を行うと共に、更に申請手続きを簡素化し電子申請を導入した「学びおくりあい」補助金を新設した。

ア 第二期武蔵野市生涯学習計画より抜粋

◆生涯学習に関する補助金制度の改善の検討

生涯学習部局では現在、生涯学習に関する市民団体の事業に対して、生涯学習事業費補助金と子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金の2つの種類の補助金の交付制度を設けています。ただし、団体・市双方における事務が煩雑であることや、事業の有効性や継続性に対する審査が困難であること等の課題があります。したがって、市は今後、事業の有効性や継続性を確保しながら、使いやすい補助金交付を通じて既存・新規を問わず団体を育成するために、制度改善を検討します。個人が豊かな人生のために自ら学び続けていくことの重要性は増していきます。

◆基本理念より

個人が豊かな人生のために自ら学び続けていくことの重要性は増していきませんが、あわせて重要なのは、個人の学びと他者や地域、コミュニティ、社会の関係ではないでしょうか。人々が他者との対話的な学びを重ねていくことは、自分の学びを深めるとともに、自分と他者が相互に認め合うことを促し、それぞれの自己肯定感を育み、社会に信頼関係や新しい価値をつくりだします。～略～ここで、本計画では、基本理念として「学びおくりあい、わたしたちがつくるまち」を掲げます。市民が自分の人生を豊かにするために学び、さらに「学びおくりあう」ことにより自分の住むまちを自分たちでつくり、そのことがさらに自分の人生や学びの環境を豊かにしていく、というまちの姿を理想としています。そして、このことを通じて、ひいては蔓延する閉塞感を取り払い、全ての人々が将来に希望を抱くことができる社会を目指します。このために、市は、市民が自ら学び、積極的に「学びおくり」を行うための環境づくりを推進します。

イ 要綱（令和7年2月1日施行）の主な改正点

- 1 目的から、「当該団体が日頃の活動では取り組むことが難しい」を削除し、「学びを通じて個人の人生の豊かさを向上させるとともに、学びにより個人と社会を結びつけて地域コミュニティをよりよくする」を追加し、日頃の活動実績がなく、補助金申請事業のために新規で立ち上げた団体でも、個人の人生の豊かさや地域コミュニティをよりよくする事業であれば可能とした。
- 2 目的から、「当該事業の自立を促し」を削除し、新規の事業の立上げ「又は既存の事業のレベルアップを図り」を追加し、既存事業においてはレベルアップ事業を目的に付け加えた。
- 3 補助金の交付申請の書類について、「第5号・前年度の活動報告書又は報告見込書及び第6号・前年度の決算書又は決算見込書にあつては、前年度の活動の実績がある団体に限る」とした。

ウ 「生涯学習・子ども体験事業補助金」と「学びおくりあい補助金」

「生涯学習事業費補助金」と「子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金」の2つを「生涯学習・子ども体験事業補助金」として統合し、新たに「学びおくりあい補助金」を新設した（令和8年4月1日）。

◆「生涯学習・子ども体験事業補助金交付要綱」主な改正点

- ・これまで「生涯学習事業費補助金」と「子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金」として、別の要綱・申請書で実施してきたが、1つの要綱・申請書に統合した。
- ・補助上限額を50万円から20万円に減額した。
- ・申請書類（第1号～3号様式）を簡略化した書式に改正し、添付書類を8種類から4種類に削減した。
- ・変更申請は内容そのものに関する変更のみとし、日時や場所の確定等は変更申請提出から除外した（日時等の確定はメール等の手段で行う）。

- ・実績報告書の提出期限を事業終了後2カ月以内から、1カ月以内（年度末に事業が完了したときは年度末まで）に改正した。

◆「学びおくりあい補助金」の新設

- ・団体のみならず、個人からの申請も可能とした。
- ・補助上限額を5万円とした。
- ・より申請方法を簡素化し、申請様式を廃止し電子申請（ロゴフォーム）とし、添付書類は事業予算書と名簿（名簿は個人申請の場合は省略）とした。
- ・プレゼンテーション審査は行わず、書類審査のみとした。
- ・補助対象経費を「謝礼費」「印刷製本費」「使用料及び借上料」の3種類とした。
- ・補助金交付について、事業終了後の精算払いとした。

（4）改善点

要綱改正を伴わない改善点は、以下のとおりである。

ア 令和6年度

- ・募集案内に過去に質問があった事項等について、Q&Aを追加した。
- ・交付団体に対する広報に関する支援として、武蔵野市社会教育委員だより「こもれび」特集号を発行、補助金交付団体の事業を紹介し、市内の図書館・市政センター・コミュニティセンター等に配布した。
- ・令和6年度補助金交付団体の報告・次年度補助金申請を検討している団体向けの説明会・団体相互の交流を目的として、学びおくりあい交流会を実施した。

イ 令和7年度

- ・募集案内に、広く周知するための広報の例を追加した。

（5）令和8年度に向けての変更点

制度改正に伴い、令和8年度の補助金事業においては、以下の点を改善することを提案する。

- ・2つの補助金についての違いを分かりやすく示し、Q&Aに迷いやすい項目を追加した募集案内にリニューアルする。
- ・補助金の説明と2つの補助金の魅力を伝える動画を作成・広報する。

2 令和6年度 武蔵野市生涯学習に関する調査

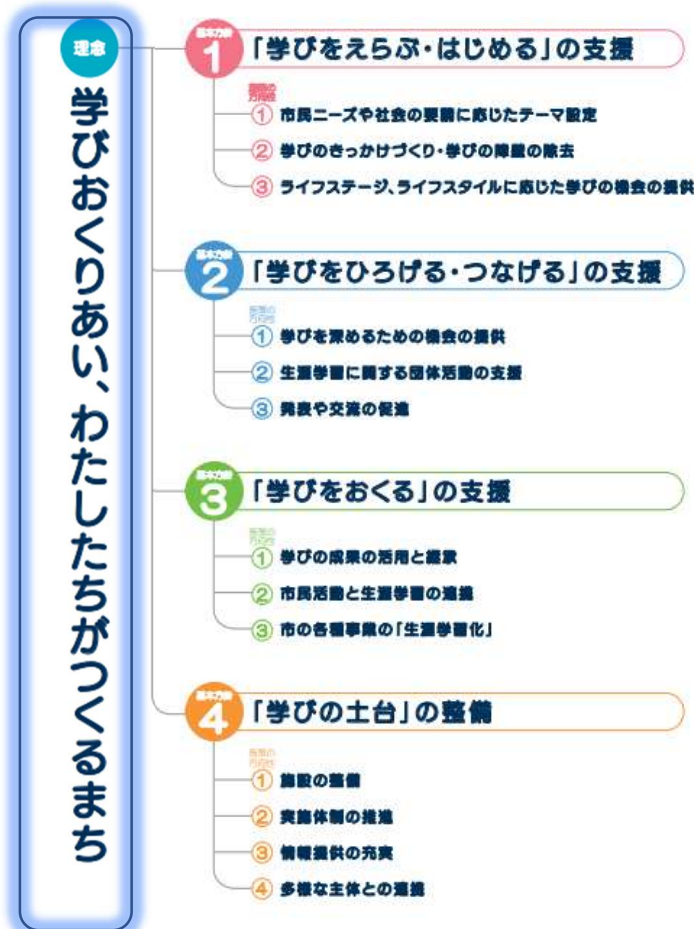
令和11年度までを計画期間とする第二期生涯学習計画（令和2年度から令和11年度まで）の中間期に、計画の進捗を測り、現在の多様な市民ニーズや新しい時代の事業テーマ、計画の残りの期間での既存事業・講座の見直しの必要性を検討する基礎資料とするためのアンケート調査を実施した。調査内容について、社会教育委員の会議において委員意見を出し合い協議を行った。

「第二期武蔵野市生涯学習計画」の施策体系

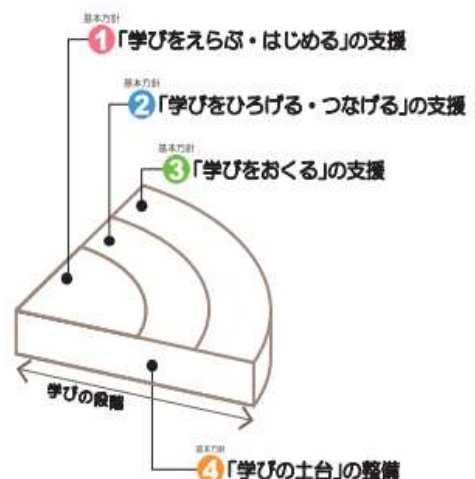
“学びおくり”とは、「第二期武蔵野市生涯学習計画」（令和2年4月策定）に記載された、学んだことを他者、地域、コミュニティ、社会、あるいは次の世代へ「おくる」（送る・贈る）ことを意味し、「恩送り」（恩を受けた人ではなく、それ以外の人へ送ること）という言葉から着想した本計画の造語。個人の学びが、自然に、かつ自発的に他者や社会とつながっていくさまを表現している。

“学びおくり”を通じて、市民が自分たちのまちを自分たちでつくることを「学びおくりあい、わたしたちがつくるまち」という言葉で表現し、同計画の基本理念とした。

【第二期武蔵野市生涯学習計画の施策体系】



基本理念実現のために4つの柱を基本方針に設定。基本方針1、2、3は市民の主体的な学びの段階に着目し、大きな目的として“学びおくり”につながっていくイメージ。基本方針4は学びを支える施設整備や実施体制。



(1) 武蔵野市生涯学習に関する調査の実施内容

ア 調査内容・調査時期

- ・計画の進捗を測る指標のひとつとして活用するとともに、多様な市民ニーズや、新しい時代の事業テーマについて調査を実施した。既存事業の見直しの検討等に活用する。
- ・計画では、第二期武蔵野市生涯学習計画の中間期である4年目にあたる令和5年度の調査を予定していたが、新型コロナウイルス感染症により、令和2～4年度に講座や事業の中止・縮小があったことから、調査の効果が不十分であることを鑑み1年先送りし、令和6年度に実施した。

① 市民向け調査（無作為抽出、対象：16歳以上の市民1,500名）

郵送(回答:郵送、web) 回答率 38.5% (郵送 375 票、web203 票、計 578 票)

調査期間 令和6年10月30日～11月27日

② 講座受講者向け（大人向け） 調査

市生涯学習事業の講座の受講者 開催時配布

大人向け 278 票 調査期間 令和6年10月5日～12月21日


子ども向け 290 票 調査期間 令和6年7月22日～11月16日

③ 講座受講者向け（子ども向け）調査 令和6年7月から11月まで

イ 調査報告書

「武蔵野市生涯学習に関する調査報告書（概要版）」令和7年3月

「武蔵野市生涯学習に関する調査報告書」令和7年3月



概要版

武蔵野市生涯学習に関する調査報告書

令和7年3月


目的
本調査は、第二期生涯学習計画（令和2年度～令和11年度）の計画期間の中間期において、計画進捗度の把握や現在の市民ニーズを得ること、計画の残存期間で新たに実施可能な事業・既存事業の見直しの必要性を検討するための基礎資料を作成することを目的に実施した。

<p>1 市民向け調査 対象：市内に住所を有する16歳以上（無作為抽出） 方法：郵送による調査票発送、郵送またはWEB回収 配布数：1,500名 期間：令和6年10月30日～11月27日 有効回収数・率：678票（38.5%）</p>	<p>2 講座受講者（大人向け）調査 対象：大人向けの市生涯学習講座受講者 方法：各講座終了時に調査を依頼し自記入式で回答後、任意で回収 期間：令和6年11月16日～12月21日 有効回収数：278票</p>	<p>3 講座受講者（子ども向け）調査 対象：子ども向けの市生涯学習講座受講者 方法：各講座終了時に調査を依頼し自記入式で回答後、任意で回収 期間：令和6年7月22日～11月16日 有効回収数：290票</p>
--	---	--

基本理念

学びおくりあい、わたしたちがつくるまち

第二期武蔵野市生涯学習計画（令和2年度～令和11年度）
生涯学習事業を推進するにあたり市が担う役割は、学びを通じて個人の人生の豊かさを向上させるとともに、学びにより個人と社会を結びつけて地域・コミュニティをよりよくなることです。
第二期生涯学習計画は、その役割を果たす事業を展開するため、市の実施する生涯学習事業を体系化し、総合的・計画的・効果的に推進するために策定されました。
「学びおくり」とは、学んだことを他者、地域、コミュニティ、社会あるいは次の世代へ「おくる」（送る・贈る）ことを意味し、個人の学びが、自然に、かつ自発的に他者や社会とつながっていくさまを表現しています。



お問い合わせ先
生涯学習課

ウ 調査結果の概要

【計画進捗度の把握】

■「学びおくり」の認知状況

- 「学びおくり」の認知度は9.0%、内容理解度は2.1%であり、「第二期武蔵野市生涯学習計画」に示している「学びおくり」という考え方が、市民には十分浸透していない。

■学びおくり率、市内の学びの環境への評価

- 学びおくり率及び市内の学びの環境への評価について前回調査（平成30年度）と比較してみると、学びおくり率は67.2%から今回61.2%に減少し、①から⑥までの評価※については、「④市民や地域・コミュニティの活動の魅力が市内外に発信されている」「⑥将来の担い手となる子どもが学ぶ機会が充実している（学校の授業以外で）」は前回調査よりも増加し、それ以外は減少している。

※学びの環境への評価項目（今回調査結果：肯定的評価をしている人の割合）	
①いつでも、学びたいときに学ぶことができる機会が充実している	48.1%
②ライフステージやライフスタイルに応じた学びの機会が充実している	39.9%
③地域やコミュニティの活動に参画するきっかけが充実している	23.0%
④市民や地域・コミュニティの活動の魅力が市内外に発信されている	27.6%
⑤学びや地域・コミュニティ活動のための施設が充実している	41.9%
⑥将来の担い手となる子どもが学ぶ機会が充実している（学校の授業以外で）	36.8%

■「学びおくり」を広めていくために～ 学びおくりをしている人の特徴を見ると

- 学んだ理由について、

学びおくりを「している」人は「人生を豊かにするため」「教養を深めるため」、学びおくりを「していない」人は「現在または当時の仕事において必要性を感じたため」が高い。

【学びに対する市民ニーズ】

■学びへの関心と意欲 学びに積極的

- 今後、何かを自分から学びたいと思うかについては、学びの積極層が93.9%と高い（「学びたい」「学びたいことが見つければ、学びたい」の回答率）。

■今後学びたい分野（全国調査※との比較）

「文学や歴史、語学」「健康やスポーツ」に興味を持っている人が多い

- 今後どのようなことを学びたいかについては、「文学や歴史、語学などの教養に関すること」（51.6%）が最も高く、次いで「健康やスポーツに関すること」（45.7%）、「音楽や美術、レクリエーション活動などの趣味に関すること」（44.3%）、「仕事に必要な知識・技能や資格に関すること」（41.0%）となっている。全国調査※と比較すると、「文学や歴史、語学などの教養に関すること」では26.7ポイント高くなっている。※内閣府世論調査「生涯学習に関する世論調査」（令和4年7月調査）

【講座受講者向け調査結果】

■講座受講者（大人向け）

学びおくりの認知度

○講座受講者(大人向け)調査結果では、学びおくりの認知度は19.5%、内容理解度は10.1%と市民向け調査結果（無作為抽出）より高くなっている。

■講座受講者（子ども向け）

○学びおくりの経験をきいたところ、「家族に伝えた」61/8%、「友だちに伝えた」35.6%。「学校の勉強に役立てた」39.5%も高い。

【講座受講者調査結果からみたニーズ】

■今後の講座の検討に向けて（検討するためのヒント、キーワードを抽出した）

◇告知・周知の工夫 ◇体験型・実地型、ワークショップ型講座

◇多世代交流 ◇勤労者世代、若い世代の参加

◇生活に役立つテーマの選定 ◇講座のレベル感の多様化

エ 調査報告後の日程・主な取組み

- ①調査報告書を4月の教育委員会、市議会に報告後、市ホームページ上で公表した。
- ②調査で得られた市民ニーズをもとに、既存の生涯学習講座にどのような見直しが必要か等について、社会教育委員の会議で意見を聞きながら検討や試行を行った。
- ③計画に掲げる「学びおくり」に対する認知度が低いという結果を受けて、講座や施設での周知方法の工夫、学びおくりにつながる機会の提供等を検討する。

(2) 社会教育委員の会議の意見

ア 令和5年度 （意見の後の「→」は調査項目や分析に反映した内容）

- ・学びおくりの実践に向けて、今後の生涯学習施策等へどのように生かしていくかについて協議を深めた。（その中の生涯学習に関する調査に関する意見）

○市の生涯学習に関するアンケート調査の際に、学びおくりの実態・進捗について確認してはどうか。

→「過去1年間に学んだことを、誰かに伝えたり、何かに役立てたりしましたか」の質問を設定し、学びおくり率を計った。

- ・具体的な設問を作成するにあたり、どういう視点から調査項目を検討したらよいか、前回アンケート項目や国の世論調査、他自治体の生涯学習に関する意識調査の項目事例を参考にしながら協議し、提案を行った。

○新しい事業テーマ等について

今後、団塊の世代が一層高齢化することにより生涯学習の見直しも必要で、新たな視点で次の方向性も探れるとよい。

→オンライン・オンデマンドでの学びについて質問を設定した。講座受講者調査の自由意見から今後の講座を検討するためのキーワード、考え方を抽出した。

○市の事業の評価について

良い評価につながるような設問ではなく、不足していた事業や反省点が洗い出せるとよい。

→主な生涯学習事業の参加状況や生涯学習施設の利用状況と利用していない理由などを質問した。

○「学びおくり」「学びおくりあい」について

・学びおくりをしていることが分かる設問や、学びおくりの必要性につながる設問はほしい。

・回答者の属性、生涯学習に対する意識、参加した講座でクロス集計し、どういう人が学びおくりを必要と考えているか見えるとよい。

・学びおくりについて知らない人もいると思われる。設問に盛り込むことにより、学びおくりの周知をすることができる。

→学びおくりをしているかを聞く質問を設けた。

・今後、力を入れて学びおくりをプロモーションしていき、次のアンケート調査で周知度合いの進捗が測れるのではないかな。

○その他、必要な視点等

・生涯学習の目的は何か（例えば：知識を蓄えることか・コミュニティを作ることか人々が幸せになることか）について、把握することも大切ではないかな。

→学んだ理由について質問した。

・次の計画のヒントにつながるような設問があるとよい。

→講座受講者調査の自由意見から今後の講座を検討するためのキーワード、考え方を抽出した。

・推移を測るため、以前のアンケート調査から継続して調査を行っていくべき調査項目を入れた方がよい。

→学びおくり率、市内の学びへの評価の調査は、前回アンケート項目との比較、今後学びたい分野の調査は、国の内閣府世論調査との比較をそれぞれ行った。

・無作為抽出の調査で、市の事業に参加していない市民の実態等を測れるとよい。

→学びおくりの認知度、学びおくり率について無作為抽出の回答と、講座受講者の回答の比較を行った。

イ 令和6年度

・前年度の意見をふまえ、調査項目案を事務局で作成し、会議において委員の間で意見を出し合い、調査項目を決定した。

○補助金交付事業に参加したことがあるかについて質問できるとよい。

→補助金事業の認知状況を問う質問とした。

○調査目的「①計画の進捗状況の評価」の意味は。

→学びの環境を評価していただき、これを成果指標とし計画の進捗を把握する。また、「学びおくり」の実施状況を把握、それを補足する質問として生涯学習計画の施策とそれに該当する市の事業を紐づけて分析することとした。

- 回収率 35%を予定しているが、ここまで期待できるか。
- 回答してもらう工夫として、お礼状兼督促状を送る予定。
- 前回は平成 30 年度に実施しており、標本数は 2,500 で今回より 1,000 多い。回答率 31.6%で 791 人から回答があった。60 歳以上 75 歳未満の回答率が 45.8%で一番高い。一番低いのは、10 歳代で 17.7%。今回は高校生以上ということで、16 歳以上に送付する。
- 今回は、郵送とインターネットの両方で回答でき、インターネットでの回答が期待できる。この点は非常に大きい。若い世代は二次元コードから回答すると思うが、年配の方々は紙ベースで答える方が多い。「5 分ぐらいの簡単な質問です」のような文言があると回答しようとなる。
- 回答率を上げるため、封筒を目立つ色にして、回答時間の目安や「WEB 回答可」の文言を入れた。
- 「今後期待すること」など自由記述欄があるといい。
- 受講者向け調査で、市主催の講座について講座内容・開催方法・その他に分けて、「講座をよりよくしていくために、どのようにしていくと良いと思うか」として自由記載欄を設けた。
- ・調査実施後、結果速報から分析内容や、クロス集計を追加して分析したい項目などについての意見
 - 「学びおくり率」と「市内の学びの環境への評価」6 項目のうち 4 項目で肯定的評価が減少していることへの分析。
 - 減少している項目に対応するような市の事業を当てはめて、そこが不足しているとみて今後の事業見直しを検討することなどが考えられる。
 - キーワードの学びおくり率が減少しているのが気になる。学びおくりしているかと知っているかもまた別となる。
 - コロナ禍の影響はあるのではないか。学ぶのは、オンラインやオンデマンドでもできて、それを周りの人へ伝えるのはなかなか難しかったのではないか。
 - 学びおくりという言葉を知らない方の類型と層はクロスで分析し傾向を知ることとした。
 - 前回調査結果より学びおくり率が下がった点について、厳密な理由は、調査項目からの分析は難しい。代わりに学びおくりをしている人の類型を把握できないか検討し新たなクロス集計を加えた。講座受講者向け調査での
 - 年齢の高い方が学んでいる印象である。70・80 代でも学びを追求する一方で、下の世代が続かないと厳しい。リタイアしてからが生涯学習というイメージなのか。クロス集計で、それぞれの年代の学びたいことを知りたい。今後の事業実施にもつながると思う。
 - 30~50 代の学んだ人が非常に少ないが、生涯学習という点では、その世代に厚く事業を実施したほうが良いと考えている。テーマが揃っていないのか、オンラインやオンデマンドなどの学ぶ手段が必要なのかという点で分析をしたい
 - そもそも 20 代が既存の講座等にアクセスしづらいとか、時間帯が合わないのか、内容に惹かれないのかというのは分析の余地がある。10 代は、70・

80代の方に比べると少ないが、20代に比べると多い。20代は社会に出たばかりで、慣れるので精一杯かもしれない。例えば、キャリアを積んでいくのに実益となる資格を取るなどして、生涯学習について考えてほしい。

- 教養や遊びが実は学びに繋がっていくという考え方を20・30代に持ってほしい。補助金事業でそのようなアプローチをするものはほとんどない。
- 平日の昼の講座が多く、現役世代で受講できるものが少ないという意見がある。
- おそらく年齢の関係が大きくて、リタイアが近いと人生とは何か考え、それを豊かにしたい、教養を深めたいと考える人が多くなる。一方で現役世代が学びおくりをしない傾向は想像がつく。学びおくりの認知度が80代で1番高いが、下の知らない人が多い世代へのアプローチが重要だと考える。例えば小学6年生が1年生を教えるとか、中学生が小学生を教える構図が学びおくりだが、認知度を上げるためにどのようにしたらよいか課題があることを把握できた。

ウ 令和7年度

- ・調査実施後、調査結果の分析について会議において議論を行った。
 - 一生懸命学んだ人たちが後世に伝えていくという趣旨が「学びおくり」であり、子どもが家族に楽しかったと感想を伝えるのも「学びおくり」というのは少し違和感がある。オリジナルで一般化されていない言葉のため、今後誤解されないよう周知する必要がある。
 - 学びおくりをどう広げていくか。
 - 新たな講座としては、同じテーマで親子が学ぶことができる講座だとよい。特に自然やお金に関すること。親と子の両方の学びにつながり、家庭でも話ができるため、広げられる。

3 令和7年度 庁内生涯学習事業調査

(1) 庁内生涯学習事業調査の実施内容

第二期生涯学習計画の基本理念の実現のための4つの基本方針①「学びをえらぶ・はじめる」の支援②「学びをひろげる・つなげる」の支援③「学びをおくる」の支援④「学びの土台」の整備について、それぞれの進捗度をはかるとともに、本市の生涯学習事業の傾向を分析し、残りの計画期間における事業の見直しの資料とするため、庁内各部課でどのような生涯学習事業が行われているかということについて調査を行った。

ア 対象

市役所各課（60課）及び亜細亜大学、成蹊大学、東京女子大学、日本獣医生命科学大学、武蔵野大学、東海大学望星学塾の66件。

イ 対象事業

生涯学習スポーツ課で毎年度発行する「大人のための生涯学習ガイド」「小中学生のまるごとナビ」に掲載する全事業及びその他の生涯学習事業

ウ 方法

メールで調査票の記入を依頼

エ 期間

令和7年6月12日～7月18日

オ 回答数

事業担当課、大学 計31か所 ※生涯学習スポーツ課は各係、施設を分けて件数をカウント
企画調整課、産業振興課、市民活動推進課、多文化共生・交流課、防災課、環境政策課、ごみ総合対策課、緑のまち推進課、地域支援課、高齢者支援課、障害者福祉課、健康課、子ども子育て支援課、子ども育成課、児童青少年課、まちづくり推進課、教育支援課、生涯学習スポーツ課(生涯学習係、市民会館、ふるさと歴史館、スポーツ推進係)、総合体育館、野外活動支援センター、武蔵野プレイス)、中央図書館、亜細亜大学、成蹊大学、東京女子大学、日本獣医生命科学大学、武蔵野大学、東海大学望星学塾

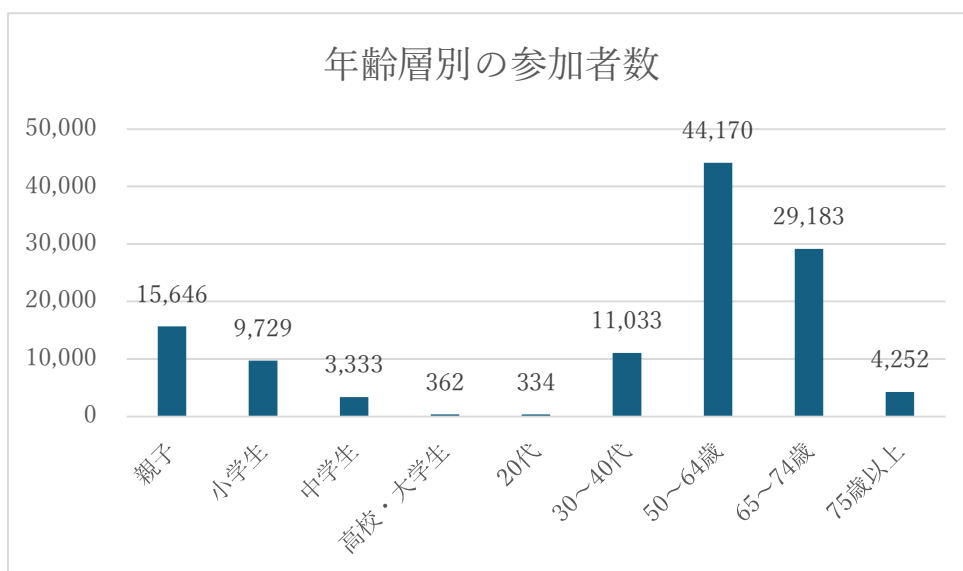
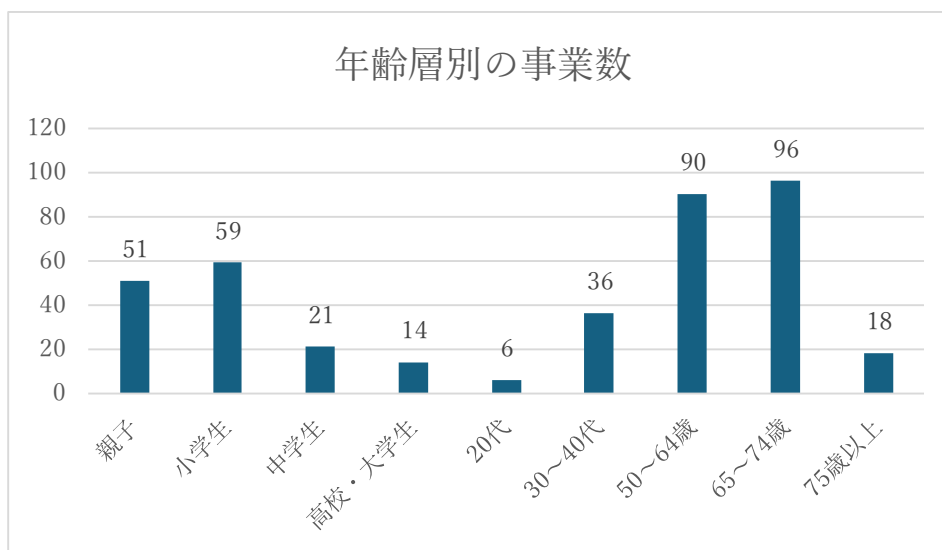
事業数合計 404事業

参加者合計 123,805人

カ 調査結果概要

【庁内・関係機関の生涯学習事業の実施傾向】

■参加者の主な年齢層



【考察】

- ・中学生・高校生・大学生・20代の若者層の事業数・参加者数が極端に少ない。
- ・学校の学習や部活、塾、友達との交流等で忙しいから参加できないという理由も考えられるが、一方で令和2年度から、中高生が自分たちの未来に関わる事業について語り合い、参加者同士がつながる場として中高生世代ワークショップ「Teens ムサカツ」を実施しており、中高生向けのイベントが少なく中高生も興味を持ちそうなイベントを企画してほしいという意見もある。
- ・中学生以上を対象としている事業はたくさんあるが、中高生～若者限定の事業は少ない。

【第二期生涯学習計画進捗状況】

基本方針1	学びをえらぶ・はじめるの支援	6.2%
基本方針2	学びをひろげる・つなげるの支援	12.5%
基本方針3	学びをおくるの支援	10%
基本方針4	学びの土台の整備	15.3%

※率は、各課の行う生涯学習事業について、施策の参加者数を全体の参加者数で割り、方針ごとに平均値を出したもの

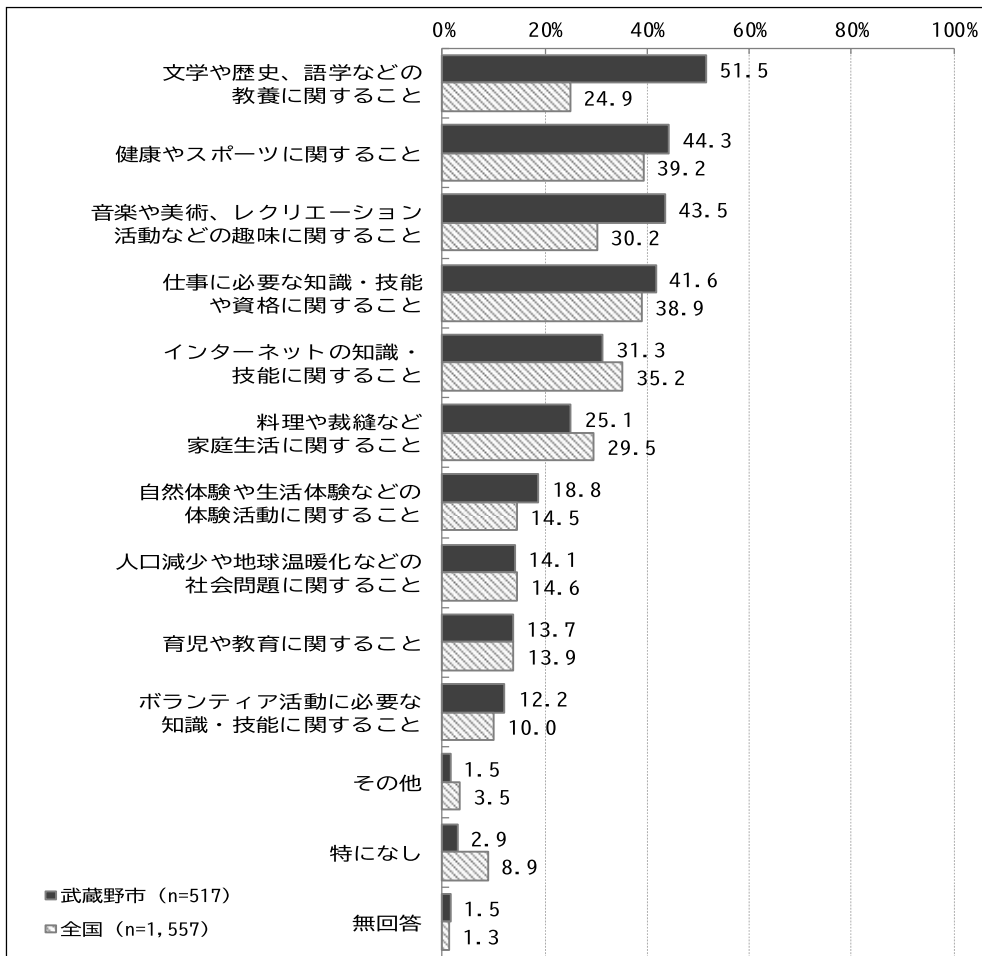
■実施分野 分野ごとの参加者数

健康やスポーツに関すること	40,899人
文学や歴史、語学などの教養に関すること	20,825人
音楽や美術、レクリエーション活動などの趣味	19,499人
人口減少や地域温暖化などの社会問題に関すること	12,551人
自然体験や生活体験などの体験活動に関すること	11,802人
育児や教育に関すること	7,025人
ボランティア活動に必要な知識・技能に関すること	2,473人
(以下略)	

【考察】

- ・健康やスポーツ教室、文学・歴史・語学、音楽・美術・レクリエーション活動に関する事業が多い。
- ・仕事に必要な知識・技能に関すること、インターネットの知識・技能に関すること、料理や裁縫など家庭生活に関することは、無作為抽出の市民アンケートでは25%以上の方が学びたいと言っているが、市の事業としてはメニューが少ない。
(次表参照)
- ・一方でこれらは民間の教室で充実しているとも言える。

【参考】令和6年度生涯学習に関する調査結果(令和7年3月)より
 今後どのようなことを学びたいか(全国調査との比較)複数回答可



(2) 社会教育委員の会議の意見

- 調査結果について、令和7年8月の定例会において意見を出し合い、協議を行った。
- ・10代・20代も少ないとは言え(事業への)参加者はいる。若年層が興味を持つ企画を自分達で企画から運営までやってもらえば楽しく参加できるのではないかな。
 - ・中高生世代の teens ムサカツ(児童青少年課所管)は、報告書もよくできており、意識の高い子が参加していると思うので、彼らに自分達の世代が参加したいと思う事業を考えてもらったらよいのではないかな。実現したというモチベーションや意識があれば継続する。
 - ・圧倒的に少ない層である20代を呼び込むためには、婚活・出会いの場になり得ることを匂わせるとよいのではないかな。
 - ・本当にやりたいことを自分で探してやっているのが20代。例えばオートキャンプのように、自分でやりたくてもやり方が分からないような場合、行ってみようかなとなるが、それ以外は自分で積極的に働きかけて調べている。
 - ・20代は講座等の学びをしなくても、身近なSNSやネットを見れば大体書いてある。それで自分たちで学んでいるのかもしれない。学んでいないわけではないと思う。

- ・リカレント教育について、行政がやるのであれば、仕事のため、単なるスキルアップではなく、参加したらその先にコミュニティとつながる、地域で何かを始めるきっかけになる、そういう事業がよい。
- ・民間でメニューを揃えているような講座も、行政の無料や低額でできる講座には魅力はある。
- ・地域とのつながりを意識した事業
- ・学びおくりあいが広がる事業
- ・広報の工夫、市報一面・特集号、きょういく武蔵野などで周知していく。
- ・学びおくりあいは言葉としては難しいので広報用のわかりやすい言葉があると良い「シェアしよう」最初は「学び」を残して「スタディシェア」だと思ったが、単純に「シェアしよう」でいい。定義というよりむしろ感覚的なものでよいのでは。動詞として「シェアしよう」と言うと「何を？」と聞きたくなり「学びを」「それぞれの団体を」等いろいろとつながる。
- ・地域の人が例えば、第一中学校・第五中学校の新しい校舎のラーニングコモンズに行き、武蔵野市の中学校は素敵だと感じてもらいながら、全体で「シェアしよう」という風になるといい。「シェア」はキーワードとして使えばよい。教育委員の方が非常に気に入ってくださった。※

※令和7年度の教育委員との懇談会（令和7年8月6日）では、テーマを「学びおくりあいをする人を増やすには」とし、教育委員、教育部課長とともにワールドカフェ（グループ討議）形式で、学びおくりあいについて話し合いを行い、さまざまな意見を出し合い共有した。

《あるグループの意見から》

◆言葉を広める

- ・イベントに名付けてしまう
- ・市報で目立つように出す
- ・魅力をアピールする
- ・「学びおくり」発表会をする
- ・学校の活用
- ・講座のチラシに必ず入れる
- ・イベント告知をもっと行う
- ・むさしの学びおくりプロジェクト
- ・フェス、文化祭

◆する人を増やす

- ・子どもでもお年寄りでも取り組める
- ・まず子どもを続けて親も
- ・中間層が忙しい
- ・テーマがあれば人は集まる
- ・役割がある
- ・ネットでも教える学べる場をつくる
- ・難しいイメージを取り除く
- ・楽しい雰囲気を作る
- ・学びおくりのハードルを下げる
- ・人と繋がることで人生が豊かになる
- ・具体例を増やす
- ・子どもたちにわかるようにする
- ・友達を連れてもらう
- ・おやじの会は学びおくりあいの会
- ・必要性があれば人は集まる
- ・集まる時間、場所を考える
- ・サブタイトルをシェアリングスタディング
- ・楽しいイメージをもたせる
- ・得た知識を教えたいようになるようにする
- ・学びおくりの手ごたえを感じられるように
- ・コミュニティを作る
- ・誰でも取り組めること

- ・「学びおくり」の判断をしやすく
- ・何が「学びおくり」なのかはっきり
- ・学びおくり人認定

◆相方向

- ・相方向の行為
- ・大人の素晴らしさ（子⇒親）
- ・大人が子どもから学ぶ
- ・顔が見える
- ・学びが深くなる

◆発表

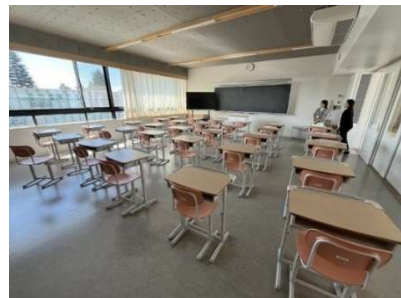
- ・学びおくりあいのバックボーンをしっかりする。定義があいまいだと広まらない。
- ・相方向がよい=つながる、対等
- ・教えた子どもの反応を見て大人が学ぶこともある。
- ・中間層に課題はある。
- ・人とつながる、で人生が豊かになり、コミュニティが強化される

(3) 令和7年度 試行事業

第二期武蔵野市生涯学習計画の進行管理のため実施した市民向けの生涯学習に関する調査、庁内生涯学習事業調査、社会教育委員の意見、教育委員と社会教育委員との懇談会意見等を分析した結果、達成度が低かった施策や年齢層等で、足りていない部分のひとつ、青少年に焦点を当てて試行事業を実施することとした。

ア 令和7年度試行事業企画1

- 1 タイトル：「チョークで描く青春の1ページ～卒業・入学を祝う黒板アート体験講座～」
- 2 日時：令和8年3月1日（日）午前10時～正午（受付：9時45分）
- 3 対象：市内在住・在勤・在学の中学生から18歳になった年の年度末まで定員20名
応募18名、参加16名（中学1年6名、2年8名、3年2名。市立第一中学校から第六中学校まで応募あり）
- 4 場所：市立第五中学校 2階 学習室1（学校改築後の五中ステップ正面の教室）
- 5 講師：すずき らな氏（株式会社LUFU所属）
- 6 講座内容：全員で教室の大きな黒板に「卒業・入学」をテーマに描く。最後に消す。
- 7 スタッフ（生涯学習スポーツ課職員）人数：4名
（校内案内人員も含める、当日は6名）
※社会教育委員視察 2名



イ 令和7年度試行事業企画2

- 1 タイトル:「春休み社会科見学バスで行く 未来につなごう容器のエコとヒミツ&防災体験」
- 2 日時:令和8年3月26日(木) 午前9時~午後5時 (集合:8時45分)
- 3 対象:市内在住・在学の小学4年生から中学3年生まで定員20名(最少催行10名)
応募 17名、参加16名(小学4年7名、5年7名、6年1名、中学2年1名。
市立小学校14名、私立小学校1名、私立中学校1名)
- 4 場所:容器文化ミュージアム(品川区東五反田2-18-1) 1時間45分
防災体験学習施設そなエリア(江東区有明3-8-35) 1時間30分 の見学
- 5 見学内容:
体験施設見学を通して、文明の誕生と容器のかかわりから最新の容器包装、リサイクルまで、歴史・技術・工夫を学ぶ。タイムカプセル缶に大事なものを保存体験。体験と学習を通じて、「災害をイメージする力」と「対応力」を身につけることで、災害への備えの必要性を認識する。それにより、持続可能な未来を自分ごととして捉えるきっかけづくりとする。
- 6 スタッフ(生涯学習スポーツ課職員)人数:3名

ウ 応募者の中学生アンケート

試行事業の応募者(参加者)の中学生以上を対象に、生涯学習事業に関する意向アンケートを行った。令和8年度の社会教育委員の会議で結果報告し、協議を行う。

4 東京都市町村社会教育委員連絡協議会の活動について

東京都下 29 の市町に置かれている「社会教育委員の会議」・「生涯学習審議会」の連絡機関として東京都市町村社会教育委員連絡協議会（以下、都市社連協）がある。都市社連協はエリアごとに五つのブロックに分かれており、それぞれブロック別に研修を行っている。

なお、定期総会、ブロック研修会、交流大会・社会教育委員研修会への参加報告については、38 頁以降の視察研修報告に記載している。

(1) 活動経過

ブロック研修会については本市社会教育委員が参加したもののみ記載している。

ア 令和6年度

月 日	種 別	内 容 等
令和6年 4月20日（土）	定期総会	調布市文化会館たづくりくすのきホール (1) 令和5年度事業・決算報告及び監査報告 (2) 令和6年度事業計画 (3) 令和6年度予算 (4) 令和6年度役員の選出・承認
	社会教育委員 研修会	テーマ：共に学びあう社会教育の実現に向けて～社会教育行政に求められる障がいをもつ人への生涯学習支援～ 講師：小林 繁（明治大学文学部教授）
7月9日（火） 会場とオンラインの併用	第1回 理事会	町田市役所市庁舎 10階/オンライン (1) 報告事項 5件 (2) 協議事項 ① 令和6年度都市社連協ブロック研修会について ② 令和6年度都市社連協交流大会・社会教育委員研修会実施要項（案）について
11月16日（土）	第五ブロック 研修会	ルミエール府中市民会館 コンベンションホール飛鳥 AB (1) 第五ブロック研修テーマ 「地域の課題解決における「学び」の意味を考える」 (2) 事例発表 ・テーマ：地域で活躍するリーダーから「活動」と「学び」の関係を聞く ・報告者：成川 綾（特定非営利活動法人ママチャーズ理事長）、山根 浩子（i-ze 代表） ・聞き手：長畑 誠（府中市生涯学習審議会会長） (3) グループワーク テーマ：「学び」は地域社会の課題解決にどうつながるのか？



月 日	種 別	内 容 等
12月14日(土)	交流大会	町田市民フォーラム3階ホール ・テーマ:「自ら学び、あなたと考え、ともに創るわたしたちのまちと未来」 ・各ブロック研修会実施報告
	社会教育委員研修会	・テーマ:「生涯学習と学校教育の連携について」 ・パネリスト:仙北屋 正樹(玉川大学客員教授)、喜田亮子(町田市地域活動サポートオフィス事務局長)、井上由美(学校支援ボランティアコーディネーター)
令和7年 2月18日(火) 会議室とオンラインとの併用	第2回理事会	町田市役所市庁舎10階/オンライン (1)報告事項 2件 (2)協議事項 ①令和6年度都市社連協表彰について ②令和7年度都市社連協定期総会議案書(案)について

イ 令和7年度

月 日	種 別	内 容 等
令和7年 4月19日(土)	定期総会	町田市民フォーラム (1)令和6年度事業・決算報告及び監査報告 (2)令和7年度事業計画 (3)令和7年度予算 (4)令和7年度役員を選出・承認
	社会教育委員研修会	「ジュニア・サイエンスカフェ活動の立ち上げin町田-ある技術者の定年後の軌跡-」 講師:池田 裕幸(鶴川サイエンスラボ) 喜田 亮子(一般社団法人町田市地域活動サポートオフィス)
7月15日(火)	第1回理事会	小金井市民会館萌え木ホール (1)報告事項 5件 (2)協議事項 ①令和7年度都市社連協ブロック研修会について ②令和7年度都市社連協交流大会・社会教育委員研修会実施要項(案)について

月 日	種 別	内 容 等
11月9日(日)	第五ブロック 研修会	調布市文化会館たづくり 12階 大会議場 研修会テーマ：「市民参加演劇で社会教育を考える」 (1)演劇「四重奏-カルテット-」上演 西牧たかね・作/篠崎光正・演出 公民館に新たに AI 搭載のロボットが導入され、公民館に通 う人々を通じて社会教育の様々な問題を取りあげた作品 (2)グループ討議及び発表 テーマ：「社会教育が支えるものとは」
12月13日(土)	交流大会	小金井市宮地楽器ホール3階大ホール 「つながり、関わり合い、ともに創造する地域の未来～身近な 課題を自分ごととして考えよう～」 ・各ブロック研修会実施報告
	社会教育委員 研修会	「関わり合いの中から生まれる地域の未来-地域社会教育実践 の経験を踏まえて-」 司会：笹井 宏益 (小金井市社会教育委員会会長) コメンテーター：伊藤 安寿華 (前小金井市社会教育委員) パネリスト：邦永 洋子 (NPO 法人こがねい子ども遊パーク) 小林 浩 (小金井第三小学校おやじの会/社会教育士) 廣川 慶明 (NPO 法人アートフル・アクション/フォトグラファー)
令和8年 2月17日(火)	第2回理事会	小金井市民会館萌え木ホール (1)報告事項 2件 (2)協議事項 ①令和7年度都市社連協表彰について ②令和8年度都市社連協定期総会議案書(案)について

Ⅲ視察等研修報告

視察等件名 令和7年度 管外研修（神奈川県大磯・海老名方面）	
実施日時 令和7年9月26日（金） 午前8時～午後4時30分	
場所 大磯城山公園（旧吉田邸）、海老名市立中央図書館	
出席委員（五十音順、敬称略） 上澤進介、岡本厚子、小町友則、齋藤秀夫、本郷伸一、三浦太郎、光田剛、三原忍	
概要 (1)大磯城山公園（旧吉田邸）見学 (2)海老名市立中央図書館見学	
研修報告 ■大磯城山公園（旧吉田邸）見学 今回の視察は、満田議長が旧赤星邸の利活用に関する委員会の委員長を務めた経験から、関連のある視察先として提案されたものである。現地では参加委員を二つのグループに分け、二名のガイドにより約一時間半の案内を受けた。 旧吉田邸の経緯として、明治22年に吉田茂の父・吉田健三が土地を購入し、敷地面積は約1万坪。第二次世界大戦中には、外交官であった吉田茂が東京の自宅を空襲で失ったことを機に本邸とした。その後、昭和30年代には海外からの賓客をもてなす迎賓館として増改築が行われた。平成21年には原因不明の火災により母屋部分が全焼したが、庭園やサンルームは焼失を免れた。火災後、大磯町が再建基金を設置し、平成27年に再建、平成29年4月1日からは大磯町郷土資料館の別館として公開されている。 今回の案内では、吉田茂の生涯と人物像、政治家としての経歴や業績の紹介があり、サンフランシスコ講和条約、日米安全保障条約など、日本の激動の時代に思いを馳せることができた。また、旧吉田邸の国登録有形文化財（兜門、七賢堂、サンルーム）や庭園の設計、迎賓館としての改築など、施設の変遷および歴史・建築思想について解説を受け、文化財としての価値を再認識した。さらに、大磯と歴代総理大臣との関わりなど、地域に根差した歴史についても興味深い知見を得ることができた。 旧吉田邸の見学を通して、文化的背景と郷土資料館としての活用方法、地域とのつながりなど、社会教育委員として参考となる点が多く、示唆に富む視察であった。（小町友則）	
	
旧吉田邸庭園及び施設	国登録有形文化財 七賢堂



相模湾を臨む吉田茂の銅像



旧吉田邸内 金の間

■海老名私立中央図書館

午後の視察は、海老名市立中央図書館へ。

この図書館は、2015年より蔦屋書店を運営するカルチャ・コンビニエンス・クラブ(CCC)が指定管理者となり、指定管理制度のもとで運営されています。

本年で10周年を迎える節目にあたり、その歩みと現在の取組みを伺う貴重な機会となりました。

リニューアル当初は、CCCによる運営やカフェ・書店を併設した“新しい公共図書館モデル”として注目を集めました。

一方で、選書や分類を従来の図書館の分類法ではなく、書店のようなライフスタイル分類にしたことで、「目的の本が探しにくい」といった従来の利用者からの意見も寄せられたそうです。

10年を経た現在では、利用者アンケートでも非常に高い満足度を得ており、視察当日の平日午後も、多くの方が思い思いに本と過ごす姿が見られました。

館内では、読書だけでなく、さまざまなイベントを通じて新しい利用者との出会いや、学びのきっかけづくりが積極的に行われていました。

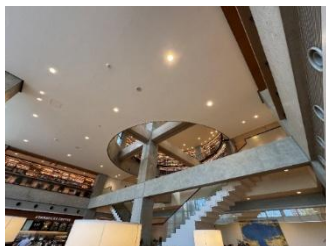
武蔵野プレイスでは、市民自らが主体となって企画・運営するイベントが多いのに対し、海老名では運営側が企画するイベントが中心でした。

その分、クオリティの高い企画を安定的に実施できるメリットがある一方で、市民参加の広がりという観点では、プレイスのように多様な人が企画に関わる仕組みも魅力的だと感じました。

地域ごとに特色のある施設があり、それぞれの土地に合った形で人と学びをつなぐ場が育まれていることはとても意義深いことです。

武蔵野プレイスをはじめ、武蔵野市の各施設も他地域の取組みから学びを得ながら、これからも「学びを送りあう」場として、より豊かに発展していくことを期待したいと思います。

(上澤 進介)



エントランスの吹き抜け
気持ちの良い空間です



床面のサイン。おしゃれ



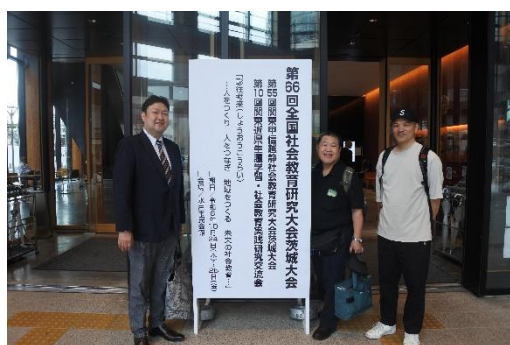
3階の子どものためのスペース
元はプラネタリウム

<p>視察件名 令和6年度第66回全国社会教育研究大会 茨城大会 令和6年度第55回関東甲信越静社会教育研究大会 茨城大会</p>
<p>実施日時 令和6年10月24日（木）～25日（金）</p>
<p>場所 水戸市民会館</p>
<p>出席委員（五十音順） 上澤 進介、本郷 伸一、光田 剛</p>
<p>概要 〈大会スローガン〉 彰往考来 ～ 人をつくり 人をつなぎ 地域をつくる 未来の社会教育 ～ 〈研究主題〉 誰一人として取り残さない社会を目指す社会教育のあり方～子どもたちの健全な成長を支える～ 記念講演：あなたの知らない名字の世界～名字には隠れた日本文化がある～ 高信 幸男氏（名字研究家） シンポジウム：子どもたちの成長を支えるために社会教育は何ができるか 金藤 ふゆ子氏（文教大学教授） 横田 能洋氏（茨城NPOセンター・コモンズ代表理事） 長谷川 馨氏（大洗町教育委員会教育長） 早川 愛氏（NPO法人たまり場ぼぼ代表理事）</p>
<p>研修報告 10月25日に行われた分科会では第3分科会に参加いたしました。「若者の主体的活動の促進」というテーマで北海道厚真けん玉クラブの斉藤烈氏と、地元茨城県水戸市の生涯学習課の石井浩司氏、高校生が主体となる水戸サブリーダーズ会の金成氏、大学生や社会人が活動するみと青年会の関山氏が発表者となり、それぞれの事例をご紹介いただきました。 斉藤氏は「けん玉を通して、人と人をつなぐ場」作りの実践からの知見を伺うことが出来た。友達という関係にまでいかずとも、地域に知人を増やしていくことで、人と人がゆるくともしっかりとつながる場になっていく。住民カードなどさまざまなアイデアで知人になれる仕掛けをつくって大変参考になった。 水戸市の事例では市の生涯学習課がサポートして、若者たちの活躍の場作りを長い間継続しており、小学生など小さい子たちがその活躍を見て、大きくなって参加するサイクルが出来ている。継続することの大切さを感じた。 若者が主体的に地域に関わるためには、地域にどんな人がいるのかを知ることと、小さい頃からの関わりが大切だ。 （上澤 進介）</p>

今年度は全国社会教育研究大会の開催県が関東甲信越静地区の茨城県水戸市であったため、関東甲信越静社会教育研究大会も同時に水戸市民会館グロービスホールでの開催となった。最初に、水戸は水戸藩藩校彰考館のあった場所で、その教育の伝統を受け継いでいることの紹介があり、小学生による暗誦の披露で大会が開幕した。テレビ番組などマスコミでもよく知られている高信幸男氏による講演は、日本の「名字」の歴史をたどった後に、各地に残る「珍しい名字」をクイズ形式も交えて紹介するというものであった。アキさせない名講演であるだけでなく、名字を通じてそれぞれの地域の歴史が見えてくることがよく伝わり、社会教育ではさまざまなきっかけを通してそれぞれの地域の歴史に目を向けて行かなければいけない、ということが感じられた。続くシンポジウムは打って変わって外国にルーツをもつ子どもたちなど「成長する」ことに課題を抱えた子どもたちに対して、学校教育だけでなく社会教育に何ができるかについて、それぞれの地域の実践を紹介し、課題やその解決策を話し合うというものであった。

翌日は、参加者がそれぞれ分かれて分科会に参加した。私（光田）が参加した分科会では、貧困家庭の子どもの支援活動、そのなかでもシングルマザー・シングルファーザーなどの家庭の子どもたちの支援活動についての紹介があり、その後、席の近い参加者のあいだでディスカッションが行われた。各地から参加された社会教育委員は、社会での立場もさまざま、年齢層などもさまざまであり、それぞれの自治体の社会教育委員の取り組み内容も異なっていて、たいへん勉強になった。内容の重さ、課題の多さに比して分科会の時間は十分でなく、かなり「時間が押した」状態で終わらざるを得なかったのが惜まれる。

(光田 剛)



視察件名 令和7年度 第67回全国社会教育研究大会 岩手大会
実施日時 令和7年10月30日（木）～31日（金）
場所 盛岡市 マリオス（盛岡市民文化ホール）他
出席委員（五十音順） 本郷 伸一、三浦 太郎
事業概要 大会スローガン：学びと絆で未来を開く 研究主題：共に学び支えあう社会教育の実践～ウェルビーイングの実現に向けて 記念講演：岩手発ブラックホール行き銀河鉄道の旅 シンポジウム：共に学び支えあう社会教育の実践～ウェルビーイングの実現に向けた社会教育の役割とは 第1分科会：これからの地域作りや家庭・地域の教育力向上に向けて社会教育委員はどのように関わっていけばよいか
研修報告 10月30日に記念講演、31日に分科会の発表が行われた。 記念講演では、国立天文台水沢VLBI観測所所長、本間希樹氏による、ブラックホールの視覚化の成功についての報告がなされた。 ブラックホールの視覚化の成功に至るまでの経緯や苦労も興味深い話であったが、最後に先生がお話しになっていた、①何かを達成するための秘訣は失敗を恐れずにチャレンジする行動力、その原動力は「好き」であることであり、好きなものを見つけ、積極的・能動的に行動することが重要である、②社会教育は学校教育と比べ能動的な行動（好きだから行く）によって達成される要素が強く、受動的な人のマインドを変えることは難しいので「気づき、発見の機会」を提供し続けることでしか社会教育の発展はないだろうという2点が印象的であった。 シンポジウムでは、健常者と障害者が共にスタッフとして働く国立市公民館「コーヒーハウス」の事例紹介、在留外国人数が全国5位と多くの在留外国人を抱える埼玉県での多文化共生の取り組み紹介、一人親家庭の支援に取り組む岩手県のNPO団体の活動紹介がなされた。それぞれ取り組みは異なるが、社会教育によって、障害者と健常者、地域住民と在留外国人、一人親家庭と社会とが繋がっていること、相互に影響を与え合うことでよりよい社会（ウェルビーイング）となっていくことを理解することができた。



翌日の第1分科会では、岩手県社会教育委員の中村議長と仙台市社会教育委員の松本委員長による事例報告が行われた。それぞれ地域性のある活動内容であったが、印象的だったのは、各地域の社会教育委員の活動が年1回～3回程度であり内容も形骸化してしまっている地域が多いことであった。そのような会が多い中で仙台市社会教育委員は、毎年研究テーマを定めて1年間委員間で調査研究を尽くし、提言書を市に提出していることは素晴らしい活動だと感じた。本会に出席し、武蔵野市としても補助金の審査は重要な役割であるものの、何らかの新しい活動を考えても良いのではないかという思いを持った。(三浦 太郎)

視察件名
令和7年度 第56回関東甲信越静社会教育研究大会 神奈川大会
実施日時
令和7年11月20日(木)～21日(金)
場所
関内ホール 大ホール、小ホール
出席委員(五十音順)
齊藤 秀夫、三原 忍
事業概要
■全大会
〈大会スローガン〉「社会教育で創る 育む つなげる 共生の未来へ」
〈研究主題〉 すべての人が学び続けられる社会をつくるために社会教育ができること
〈記念講演〉 演題：「誰もが自分らしく生きることができる社会をめざして」 講師：認定NPO法人スローレーベル 栗栖 良依氏
シンポジウム テーマは研究主題に同じ
■分科会
〈主題〉地域の教育力の再生と社会教育委員の役割
〈研究主題〉地域の教育力の低下が指摘されている中で、地域の教育力を再生していかなければならない。その再生にむけた社会教育委員の役割について考える。
〈事例発表〉下諏訪町「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡を題材にした学び～紙芝居をつくった私たちの物語」 海老名市「子どもと大人が共に育つ社会の構築を目指して」
研修報告
横浜らしく中華獅子舞で歓迎セレモニーが始まった。初めて見る中華獅子舞はダイナミックで素晴らしかった。
オリンピック、パラリンピックの開会式閉会式のディレクターを務めた栗栖良依さんの講演では、誰もが平等に自分らしく生きていくために必要な様々なことを一から障害者健常者ともに、一緒に考え行動し創りあげていった当時の様子を話してくださった。
シンポジウムではコーディネーターの進行のもと、地域、行政、視覚障害のある社会教育委員のトークによる意見交換や情報発信があった。それぞれの方が活動していく中でよかったことや困っていることなど、またアドバイスなどもあり、大変有意義な時間となった。
最後は来年の開催県群馬県の皆さんの挨拶、横浜出身の「ゆず」の「栄光の架橋」で幕を閉じた。 (三原 忍)

下諏訪町、海老名市共に社会教育委員自らが活動している事例発表であった。

下諏訪町は地域に根差した学びとして、地域の貴重な文化遺産を子供や地域住民に伝えられるように「星ヶ塔黒曜石原産地遺跡」を題材にした紙芝居を自ら作成し、色々な機会に上演し、地域の歴史資源を学び送りしている。

海老名市の事例は、「えびなっ子ふれあいフェスタ」「えびなっ子いきいきシンポジウム」等武蔵野市が補助金事業として行っている事業を社会教育団体と連携して実施している事例が発表された。事業の視察では無く、計画の立案や、計画の進捗に社会教育委員が主体的に参加し、行動している。

分科会の内容とは離れるが、分科会の中で他の教育委員と話す時間があり、栃木県鹿沼市の教育員会から「鹿沼かるた」の活動について話を聞く事が出来た。作成・配布で終わり活用されていなかった「鹿沼かるた」のかるた大会などを開催し活用する事で鹿沼市の地域理解・活性化を行っているとの事。

今回事例発表があった2件と話を聞く事が出来た鹿沼市で社会教育委員が自ら行動を起こしている事が新鮮であった。

(齊藤 秀夫)

視察件名
令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 交流大会・社会教育委員研修会
実施日時
令和6年12月14日(土) 午後1時30分～午後4時5分
場所
町田市民フォーラム 3階 ホール
出席委員
光田 剛
概要
(1)各ブロック研修会実施報告 第1ブロック幹事 羽村市、第2ブロック幹事 国立市、第3ブロック幹事 多摩市、 第4ブロック幹事 清瀬市、第5ブロック幹事 府中市 (2)社会教育委員研修会「生涯学習と学校教育の連携について」 ・事例紹介及びパネルディスカッション
研修報告
<p>まず各ブロックからの研修会実施報告が各ブロック幹事市から行われた。ブロックごとに、抱える地域の課題には、共通点もあり、違いもある。それに応じて研修会の内容も多様であるが、それぞれのブロックや幹事市の個性が研修会のプログラムにも表れていることを実感した。</p> <p>続く研修会では、どの自治体でも(武蔵野市でも)課題となっている、生涯学習と学校教育の連携についての講演(事例の紹介)と、それをもとにしたパネルディスカッションが行われた。学びの多様性の幅が広がり、さらに指導要領の改訂で探究学習も始まって、学校教員の仕事の負担はきわめて大きくなり、児童・生徒の学びの対象の広がりには学校教員だけでは担いきれないものになっている。一方で、地域にはさまざまな専門を持ち、社会でさまざまな体験をしてきた人びとがいるわけで、その「地域人材」の人びとにどう学校教育に関わってもらおうか、ということが大きな課題となる。ここで印象づけられたのがコーディネーションの重要性である。企業の第一線で活躍してきた「人材」だからといって、その経験で得たものを学校教育で即活かせるとは限らない。地域の側で適切に学校教育にリンクしていくためのコーディネーションのしくみを整える。それによって、企業を初めとする「大人の社会」の知見や地域社会に「眠る」知見を、未来を担う子どもたちにさらに発展させてもらうための素地ができる。その循環を見渡す目が必要だ、ということ強く感じた。</p> <p>家庭の事情その他で、その「入り口」に到達できない児童や生徒に対してはどう対応するのか、という点を質問したが、それについては十分な回答が得られなかったという印象である。しかし、これについてはそんなにかんたんな回答があるはずもない。「学びおくり」をモットーとする私たちとしても継続して考えなければならない問題だと思った。</p>
(光田 剛)

視察件名
令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 交流会・社会教育委員研修会
実施日時
令和7年12月13日(土)
場所
小金井市宮地楽器ホール 3階大ホール
出席委員
齊藤 秀夫
概要
<p>第1部 式典</p> <p>第2部 各ブロック研修会実施報告</p> <p>第3部 社会教育委員研修会「関わり合いの中から生まれる地域の未来-地域社会教育実践の経験を踏まえて-」</p> <p>・事例紹介及びパネルディスカッション</p>
研修報告
<p>短い時間で5ブロックの研修会報告がされたため、個々のブロックの研修会の内容に関しては概要の発表に終わったが、各ブロックでの取り組み、研修内容、運営について工夫されている事が良く分かった。</p> <p>第一ブロックでは瑞穂町の取り組みとして、「瑞穂ふるさと大学」や住民提案型協働事業「みずほ笑ホール寄席」が紹介された。第二ブロック国分寺市では「居場所から見えてくる子どもたちの姿」をテーマに、地域・学校・福祉の3つの分野から事例発表を行いグループ討議・発表を行ったことが発表された。第三ブロック町田市からはアンガーマネジメントの講演や、町田市民文学館の取り組みについて報告された。第四ブロック西東京市からは「下野谷遺跡で結ぶ人と人とのつながりづくり」の講演と地域のつながりづくり」の上でポイントとなった事について、基調講演や各自の事例紹介の内容を受けて議論した事が報告された。第五ブロック調布市からは公民館を舞台にした社会教育劇を市民参加により上演し、学校教育や社会教育、家庭教育の問題などを、多面的な視点から議論を行ったことが報告された。</p> <p>第3部として、事例紹介及びパネルディスカッションが行われたが、非常に参考になるパネルディスカッションであった。地域社会での活動を立ち上げるための研修に参加しNPOを立ち上げた例や、PTAの役員から「おやじの会」を立ち上げ運営している方の事例発表やパネルディスカッションで発言が参考になった。参加者に負担をかけずに「参加してもらおう」「引き込んでいく」「継続していく」ために工夫されているのが参考になった。</p> <p style="text-align: right;">(齊藤 秀夫)</p>

視察件名 令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 第五ブロック研修会
実施日時 令和7年11月9日(日)
場所 調布市文化会館たづくり12階 大会議場
出席委員 三浦 太郎
概要 研修会テーマ：「市民参加演劇で社会教育を考える。」 (1)演劇「四重奏-カルテット-」上演 西牧たかね・作/篠崎光正・演出 公民館に新たにAI搭載のロボットが導入され、公民館に通う人々を通じて社会教育の様々な問題を取りあげた作品 (2)グループ討議及び発表 テーマ：「社会教育が支えるものとは」
研修報告 演劇では、演者を市民から募集して、公民館を舞台とした市民間の交流をテーマに演じられていた。演者は演劇未経験者も多かったが、しっかり演じられていてとても感心した。劇中では、大学生の母親を持つ女性が、育児に悩む女性にアドバイスする、AIロボットの使い方について中学生が高齢男性にアドバイスするシーンがあり、これが「学び送りだ!」とハッとさせられる瞬間があった。 また、公民館が学び送りの中心的な役割を担っていることを認識することが出来た。 各班に分かれてのグループワークでは、各班で議論の中心となる話題が異なっていたようだが、私の班では、不登校支援をしている方がいたこともあり、家庭内教育における社会教育の役割等について議論されていた。なかでも印象的だったのは、だんだんと躰などよりも家庭内教育の中心が学力になってきて学校教育に近いものになってしまっていること、共働き世帯が増えて家庭内で過ごす時間が減ってきてしまっていて社会教育の役割がより大きくなっていることの2点であった。 家庭内教育、学校教育、社会教育という3つの教育がうまく機能するように社会教育委員としてサポートしていきたいと感じた研修会でした。 <div style="text-align: right;">(三浦 太郎)</div>

視察件名
令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 定期総会
実施日時
令和6年4月20日(土) 午後1時から
場所
調布市文化会館たづくり くすのきホール
出席委員(五十音順)
齋藤 秀夫、本郷 伸一、光田 剛
概要
(1)表 彰 (2)議 事 令和5年度事業報告、決算及び会計監査報告、令和6年度事業計画、予算、役員 (3)講演会 「共に学びあう社会教育の実現に向けて～社会教育行政に求められる障がいをもつ人への生涯学習支援～」 講師：小林 繁 氏(明治大学文学部教授)
研修報告
議事では前年度決算、今年度予算をはじめとする提案が、何点かの質問を経て承認・可決された。 議事に続いて「共に学びあう社会教育の実現に向けて」のタイトルで講演会が開催された。障碍をもつ人にとって、学校在学中は学校教育を受けることができ、また学校の支援が受けられるが、学校を卒業すると、その「教育」を担当する部門がなくなってしまう。障碍をもつ人にとって、それは居場所の喪失につながる、という課題がまず紹介され、障碍をもつ人が学校を離れた後の「教育」を担い、その居場所を作るのはまさに社会教育の役割であることが論じられた後、いくつかの教育と居場所作りの実践事例が報告された。それを通じて、地域で共に学びあうとはどういうことか、そこで社会教育や社会教育委員はどのような役割を果たせばいいかが論じられた。 この講演会では、何より、障碍のある人が学校を出てしまうと「教育」から切り離され、それと同時に居場所も制約されてしまうという現実を改めて認識させられた。それとともに、その障碍をもつ人びとの学びへの取り組みを通じて、「社会教育」が担う範囲の広さについてあらためて考えさせられた。それぞれの地域で、地域ごとの事情があり、社会教育が、また各自治体の社会教育委員が担わなければならない役割はさまざまであろう。市民の活動の方向性やその活発さの程度は多様だし、それに対する社会教育委員の関わりかたもさまざまだろうけれど、「共に学びあう」という目標を具体化するにはどうすればよいか、大いに考えさせられた。それは武蔵野市の社会教育の「学びおくり(あい)」という目標を考えるときにも忘れてはいけない視点だと感じた。 <p style="text-align: right;">(光田 剛)</p>

視察件名
令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会 定期総会
実施日時
令和7年4月19日(土) 午後1時30分から
場所
町田市民フォーラム ホール
出席委員
光田 剛
概要
(1)表 彰 (2)議 事 令和6年度事業報告、決算及び会計監査報告、令和7年度事業計画、予算、役員 (3)講演会 「ジュニア・サイエンスカフェ活動の立ち上げ in 町田-ある技術者の定年後の軌跡-」 講師：池田 裕幸 氏（鶴川サイエンスラボ） 喜田 亮子 氏（一般社団法人町田市地域活動サポートオフィス）
研修報告
<p>議事では、事業報告、決算（+会計監査報告）、事業計画、予算、役員などに関する提案がいずれも承認・可決され、スムーズに議事が進行した。なお、ここで、今年度の会計監査担当自治体として武蔵野市が選ばれた。</p> <p>続く講演会では、鶴川サイエンスラボで活動しておられる池田裕幸さんによる講演が行われた。企業で開発を担当してこられた池田さんが、地域子どもたちに科学の楽しさ、面白さを伝える、という活動を行うために「鶴川サイエンスラボ」を立ち上げられた。それには、企業側が「技術者の定年後」を見据えたバックアップと、地域でのコーディネート、とりわけ社会教育活動に関する「起業」支援の仕組みが大きく働いていたことが伺えた。前年の交流大会の研修会を引き継ぐ内容であった。とくに、共同で講師を務められた喜田亮子さんの「町田市地域活動サポートオフィス」の役割が大きかったことが伺える。</p> <p>地域の人材を「引き出す」ためには、ある面で「小さなきっかけ」があればよい、ということはこの講演を聴いて考えた。しかし、どういうものがそのきっかけになるかというと、それは計画・設計の段階で考えるほど単純ではないのかも知れない。また、数学嫌い・理科嫌いの児童・生徒が一定数いる一方で、社会で求められる科学の知識、科学をめぐるリテラシーは高度になりつつある。鶴川サイエンスラボと町田市の事例をどうやって活かしていくか。武蔵野市はサイエンスフェスタが長く続いており、しかも毎年盛況で、サイエンスと学校教育をつなぐ面では成功している例であると思うが、この町田市の事例などを参考にしつつ模索を続けていくことも必要ではないかと感じた。</p> <p style="text-align: right;">（光田 剛）</p>

IV 資料

1 活動経過

ア 定例会

月 日	内 容 (一部抜粋)
令和6年 4月25日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金、生涯学習事業費補助金について ・「青少年問題協議会委員」委員の選出について ・令和5年度補助金報告について ・令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会について
5月24日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度生涯学習事業費補助金、子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金審査について ・令和5年度補助金報告について
6月6日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度補助金審査について ・教育委員と社会教育委員との懇談会について
6月13日(木) 6月14日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金審査
7月25日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・概要説明「第四期武蔵野市学校教育計画」について ・教育委員と社会教育委員との懇談会について ・補助金事業の見直しについて ・補助金審査結果について ・こもれび特集号について ・東京都市町村社会教育委員連絡協議会第1回理事会について
8月5日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員との懇談会について(振り返り) ・補助金の見直しについて ・全国・関東甲信越静社会教育研究大会参加者について ・補助金変更届・視察報告について ・市民アンケートについて
9月26日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の見直し案について ・生涯学習に関するアンケート調査について ・補助金変更届・視察報告について ・令和6年度武蔵野市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書(令和5年度分)について
10月17日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金事業の見直しについて ・補助金事業交流会について ・補助金変更届・視察報告について ・生涯学習に関するアンケート調査について

月 日	内 容 (一部抜粋)
11月28日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の見直しについて ・学びおくり交流会(仮)について ・東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について ・補助金変更届・視察報告について ・生涯学習に関するアンケート調査について ・全国社会教育研究大会茨城大会について ・東京都市町村社会教育委員連絡協議会第五ブロック研修会について
12月26日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の見直しについて ・令和6年度補助金交流会について ・生涯学習に関するアンケート調査について ・令和7年度会議日程について ・補助金変更届・視察報告について ・東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について
令和7年 1月23日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の見直しについて ・令和7年度補助金事業募集について ・生涯学習に関するアンケート調査について ・補助金変更届・視察報告について
2月27日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の見直しについて ・令和7年度補助金事業募集について ・補助金説明会・学びおくりあい交流会について ・生涯学習に関するアンケート調査について ・補助金変更届・視察報告・実績報告について ・東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会について
3月27日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度補助金事業説明 ・令和6年度補助金交付団体報告 ・補助金交付団体と申請を検討している団体との情報交換、交流
4月25日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度社会教育委員の会議年間予定(案)について ・令和7年度生涯学習事業費補助金、子ども文化・スポーツ・体験活動団体支援事業費補助金について ・補助金の見直しについて ・生涯学習に関するアンケート調査について
5月30日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度生涯学習事業費補助金、子ども文化・スポーツ・体験活動団体事業費補助金審査について ・補助金の見直しについて ・生涯学習事業に関する庁内調査の実施について ・教育委員との懇談会のテーマについて ・子どもプラン推進地域協議会委員の推薦について

月 日	内 容 (一部抜粋)
6月10日(火) 6月16日(月)	・補助金審査
7月25日(金)	・教育委員との懇談会について ・補助金の見直しについて ・生涯学習事業に関する庁内調査結果について ・管外研修について
8月6日(水)	・教育委員との懇談会について(振り返り) ・生涯学習事業に関する庁内調査結果について ・補助金の見直しについて
9月26日(金)	管外研修(大磯城山公園、海老名市立中央図書館)
10月24日(金)	・管外研修の振り返り ・補助金の見直しについて ・生涯学習試行事業について
11月28日(金)	・補助金見直しについて ・生涯学習試行事業について ・全国社会教育研究大会岩手大会(10/30-31)について ・東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会(11/9)について ・関東甲信越静社会教育研究神奈川大会(11/20-21)について
12月23日(火)	・補助金の見直しについて ・学びおくりあい交流会(案)について
令和8年 1月30日(金)	・補助金の見直しについて
2月27日(金)	・令和8年度補助金の募集案内・説明動画案について ・学びおくりあい交流会について ・補助金変更届・視察報告・実績報告について ・生涯学習試行事業について ・社会教育関係団体のバス借上料補助金について ・東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会について
3月27日(金)	・補助金報告会について(振り返り) ・令和8年度補助金事業について ・協議報告書(令和6~7年度)について

イ 全国社会教育研究大会・関東甲信越静社会教育研究大会

月 日	種 別	内 容 等
令和6年 10月24日(木) ～25日(金)	全国社会教育 研究大会 関東甲信越静 社会教育研究 大会※(茨城大会)	茨城県水戸生涯学習センター ほか 〈大会スローガン〉 「彰住考来～人をつくり 人をつなぎ 地域をつくる 未来の社会教育～」 〈研究主題〉 誰一人として取り残さない社会を目指す社会教育のあり方 ～子どもたちの健全な成長を支える～

月 日	種 別	内 容 等
令和7年 10月30日(木) ～31日(金)	全国社会教育 研究大会 (岩手大会)	盛岡市民文化ホール ほか 〈大会スローガン〉 「学びと絆で未来を拓く！」社会教育の イーハトーブをめざしてinいわて 〈研究主題〉 共に学び支えあう社会教育の実践～ウェルビー ーイングの実現に向けて～
11月20日(木) ～21日(金)	関東甲信越静 社会教育研究 大会 (神奈川大 会)	関内ホール ほか 〈大会スローガン〉 「社会教育で創る 育む つなげる 共生の未来へ」 〈研究主題〉 すべての人が学び続けられる社会をつくるた めに社会教育ができること

※令和6年度は全国社会教育研究大会、関東甲信越静社会教育研究大会が同時開催

ウ 教育委員との懇談について

令和6年度

8月5日(月) 午後1時15分～2時45分

場 所 市役所 412 会議室

概 要 「第四期武蔵野市学校教育計画」より施策5
『生涯にわたる自立した学び手の育成』につ
いてをテーマに高丸一哉統括指導主事から情報提供の後、講演の内容を
もとに教育委員とワールドカフェ方式でグループ討議を行った。



令和7年度

月 日 8月6日(水) 午後1時15分～2時45分

場 所 市役所 412 会議室

概 要 第二期生涯学習計画の基本理念『学びおくりあひ、わたしたちがつくるまち』より、「学びおくりあひをする人を増やすには」について教育委員とワールドカフェ方式でグループ討議を行った(31～32頁参照)。



2 社会教育委員名簿

	氏 名	任 期	所 属・職 名 等
1	議長 光田 剛	令和元年5月1日～ 令和8年3月31日	成蹊大学法学部 教授
2	副議長 辻本 昭彦	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	法政大学生命科学部 教授
3	谷川 拓也	令和5年4月1日～ 令和8年3月31日	武蔵野市立第一小学校 校長
4	鈴木 斉	令和4年4月1日～ 令和8年3月31日	武蔵野市立第六中学校 校長
5	上澤 進介	令和2年4月1日～ 令和8年3月31日	株式会社まめなり 代表
6	岡本 厚子	令和4年4月1日～ 令和8年3月31日	武蔵野市民交響楽団 事務局長
7	小町 友則	令和4年4月1日～ 令和8年3月31日	NPO法人武蔵野自然塾 理事
8	齋藤 秀夫	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	一般社団法人武蔵野市スポーツ協会 専務理事
9	三浦 太郎	令和4年4月1日～ 令和8年3月31日	一般社団法人武蔵野青年会議所 副理事長
10	本郷 伸一	令和2年4月1日～ 令和8年3月31日	青少年問題協議会井之頭地区委員会 委員長
11	三原 忍	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	元武蔵野市立第一中学校 PTA会長
12	木下 大生	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	武蔵野大学人間科学部 教授

(肩書は就任時)

社会教育委員の会議 協議報告書
(令和6～7年度)

発行日：令和8年4月1日

発行者：武蔵野市教育委員会教育部生涯学習スポーツ課

武蔵野市緑町2-2-28

0422-60-1902（直通）

編集：社会教育委員の会議